



## 競技規則

### 国際オリエンテーリング連盟 (IOF) スキーオリエンテーリング大会

- (スキーオリエンテーリング世界選手権の規則)
- (スキーオリエンテーリングワールドカップの規則)
- (スキーオリエンテーリングジュニア世界選手権の規則)
- (スキーオリエンテーリングマスターズ世界選手権の規則)
- (IOF 世界ランキングイベントの規則)

このバージョンの競技規則は、2013年12月1日から有効である。

その後の修正は、下記の IOF 公式 Web サイトで発表される。

<http://www.orienteering.org/>

左余白の縦線は、  
前のバージョン (2012年7月1日) からの主な変更を示す。

## 国際オリエンテーリング連盟 (IOF) スキーオリエンテーリング大会競技規則

1.	定義	3
2.	総則	4
3.	大会プログラム	5
4.	大会での適用	6
5.	クラス	6
6.	参加	7
7.	費用	8
8.	大会に関する情報	9
9.	エントリー	11
10.	交通および輸送	12
11.	トレーニングおよびモデルイベント	12
12.	スタート順とヒート割り当て	12
13.	チームオフィシャルミーティング	14
14.	トレイン	15
15.	地図	15
16.	コース	15
17.	制限エリアおよびルート	17
18.	コントロールの説明	17
19.	コントロールの設置と器具	17
20.	パンチシステム	18
21.	器具	18
22.	スタート	19
23.	フィニッシュおよび計時	20
24.	結果	21
25.	表彰	22
26.	フェアプレイ	23
27.	申し立て	24
28.	不服申し立て	24
29.	裁定委員会	24
30.	アピール	25
31.	大会管理	25
32.	大会報告書	26
33.	広告および後援	27
34.	メディアサービス	27
35.	寒冷気候での安全性	27
	付録 1: 一般的競技クラス	28
	付録 2: チームオフィシャルミーティングの議題	29
	付録 3: 公認パンチシステム	31
	付録 4: マススタート大会のガイドライン	32
	付録 5: コース設定の原則	34
	付録 6: 環境活動に関する IOF 決議	44
	付録 7: ライプニッツ協定	45
	付録 8: 主な IOF スキーオリエンテーリング大会での トレインの使用に関するガイドライン	46
	付録 9: ヨーロッパスキーオリエンテーリング選手権	48

## 1. 定義

- 1.1 スキーオリエンテーリングは、競技者がテレインを独力でナビゲートするスポーツである。競技者は、地上に印された多数のコントロールポイントを、地図とコンパスだけを使用して、可能な限り短時間で通過しなければならない。コースは、コントロールの位置によって定義され、スタートまでは競技者に明かされない。ナビゲーション・スキルが決定要素となるような方法で、スキーとナビゲーションのスキルが試されるものとする。スキーオリエンテーリングでは、コースは主にスキーで走破されるものとする。一部は徒歩で通過してもよく、その場合、競技者は適切なサイズのスキー、スキーポール、およびスキー靴を持ち運ばなければならない。
- 1.2 個人のインターバル・スタート・レースでは、競技者はテレインを独力でナビゲートし、スキーで走破する。
- 1.3 マススタートおよびチェイシング（時間差）スタートのレースでは、競技者は互いに接近してスキーすることが多いが、形式的には、やはり独力でナビゲーションする。
- 1.4 競技者という用語は、いずれかの性別の個人、または個人のグループを意味する。
- 1.5 オリエンテーリング競技の種類は、次のように分類できる。
  - ・ 競技の開催時刻：
    - ・ 昼間競技（日中）
    - ・ 夜間競技（日没後）
  - ・ 競技の性質：
    - ・ 個人（個人が独立して行う）
    - ・ リレー競技（2名以上のチームメンバーが連続して継走する）
    - ・ スプリントリレー競技（2名のチームメンバーが3つの個別レースに交代で参加する。混合スプリントリレーでは、チームに少なくとも1名の女性が含まれていなければならない）
    - ・ チーム競技（2名以上の個人が協力する）
  - ・ 競技結果の決定方法：
    - ・ 単一レース競技（1つのレースの結果が最終結果になる。競技者は、Aレース、Bレースなど、複数のレースに参加でき、Aレースの入賞者の後にBレースの入賞者が位置づけられるなど）
    - ・ 複数レース競技（1日または複数日に開催された2つ以上のレースの結果を合算して最終結果とする）
    - ・ 予選・決勝レース競技（競技者は1回以上の予選レースを通過することで決勝レースの参加資格を得る。予選では、異なるヒートに割り当てられることがある。決勝レースの結果のみで、競技の結果が決まる。A決勝、B決勝などに分けられることがあり、A決勝の入賞者の後にB決勝の入賞者が位置づけられるなど）
  - ・ コントロールの通過順序：
    - ・ 特定順序（順序が決められている）
    - ・ 不特定順序（競技者が自由に順序を選ぶことができる）
  - ・ レースの長さ：
    - ・ エクストラロングディスタンス
    - ・ ロングディスタンス
    - ・ ミドルディスタンス
    - ・ スプリント
    - ・ その他の距離
- 1.6 「連盟」（Federation）という用語は、IOFのメンバーである連盟を意味す

る。

- 1.7 「大会」、「競技会」、「イベント」(event) という用語は、スタート順抽選、チームオフィシャルミーティング、式典などの組織的事項も含めて、スキーオリエンテーリング競技会のあらゆる局面を包含する。大会には、スキーオリエンテーリング世界選手権など、複数の競技が含まれることがある。
- WSOC 1.8 世界スキーオリエンテーリング選手権 (WSOC) は、スキーオリエンテーリングの世界チャンピオンのタイトルを授与する公式大会である。IOF および指定された連盟の権限で開催される。
- WCup 1.9 スキーオリエンテーリングワールドカップ (WCup) は、そのシーズンの世界最高のスキーオリエンティアを決定する公式シリーズ戦である。各大会は 1 つの競技に限られる。IOF と主催者の連盟の権限の下で、さまざまな大会が開催される。
- JWSOC 1.10 スキーオリエンテーリングジュニア世界選手権 (JWSOC) は、スキーオリエンテーリングのジュニア世界チャンピオンのタイトルを授与する公式大会である。IOF および指定された連盟の権限で開催される。
- WMSOC 1.11 スキーオリエンテーリングマスターズ世界選手権 (WMSOC) は、世界最高のベテランスキーオリエンティアを決定する公式大会である。IOF および主催者の連盟の権限で開催される。
- ROC 1.12 地域スキーオリエンテーリング選手権 (ROC) は、各 IOF 地域についてスキーオリエンテーリングの地域チャンピオンのタイトルを授与する公式大会である。IOF および指定された連盟の権限で開催される。IOF 地域は、アフリカ、アジア、ヨーロッパ、北米、オセアニア、および南米である。
- WRE 1.13 IOF 世界ランキングイベント (WRE) は、IOF 理事会によって承認され、公式 IOF カレンダーに記載された国際大会である。IOF および主催者の連盟の権限で開催される。
- 1.14 IOF 世界ランキング方式は、世界のエリートスキーオリエンティアをスキーオリエンテーリング世界選手権、ワールドカップ、およびワールドランディングイベントでの成績に基づいてランク付けするシステムである。
- 1.15 IOF イベントアドバイザーは、IOF 大会を管理するために指名された個人である。ワールドゲーム、世界選手権、ジュニア世界選手権、マスターズ世界選手権、ワールドカップ、および地域選手権大会の場合、IOF シニアイベントアドバイザーという呼称が使用される。

## 2. 総則

- 2.1 これらの規則は、付録とともに、スキーオリエンテーリング世界選手権、スキーオリエンテーリングワールドカップ、スキーオリエンテーリングジュニア世界選手権、スキーオリエンテーリングマスターズ世界選手権、および地域スキーオリエンテーリング選手権と IOF 世界ランキングイベントの W21 および M21 エリートクラスを拘束するものとする。番号の前に大会略語が付いていない規則ポイントはすべて、これらすべての大会について有効である。これらの大会の 1 つ以上についてのみ有効な規則ポイントには、規則ポイント番号の横の余白に特定の略語が付けられている。そのような特定の規則は、それと矛盾する一般規則に優先する。
- 2.2 2 種類の大会が同時開催される場合（たとえば、世界選手権がワールドカップの一部として開催される場合）、より上位の大会（1.8~1.13 の順序によって定義される）の規則が優先するものとする。
- 2.3 これらの規則は、国内規則の基本として推奨される。
- 2.4 特に記載がない場合、これらの規則は個人の昼間のスキーオリエンテーリング競技について有効である。

- 2.5 主催者は、これらの規則に矛盾しない追加規定を定めることができる。それらは IOF イベントアドバイザーの承認を必要とする。
- 2.6 これらの規則と追加規定は、すべての競技者、チーム役員、および開催組織関係者または競技者の関係者に対して拘束力を持つものとする。
- 2.7 競技者、主催者、および裁定委員会は、これらの規則を解釈するにあたり、スポーツの公平性を旨としなければならない。
- 2.8 他の言語への翻訳から生じた紛争においては、これらの規則の英語版が決定力を持つものとする。
- 2.9 リレーにおいては、特に記載がない限り、個人競技の規則が有効である。
- 2.10 IOF 理事会は、従わなければならない特別な規則または規範を決定することができる。たとえば、IOF アンチドーピング規則、IOF プロトコルガイド、オリエンテーリング地図の国際仕様、コース設定の原則、ライブニッツ協定などである。
- 2.11 IOF 理事会は、これらの規則および規範からの逸脱を許可することができる。逸脱許可申請は、大会の 6 か月前までに IOF 事務局に送付されるものとする。
- 2.12 例外的な状況では、特殊な積雪または気象条件により、最大限の公平性を期すために、主催者は IOF イベントアドバイザーとともに規則の逸脱を許可することができる。そのような逸脱は、可能な場合、チームリーダー会議で同意を得るべきである。
- WCup 2.13 スキーオリエンテーリングワールドカップガイドライン（毎年のワールドカップシーズンの前の 6 月末までに更新される）に従うものとする。逸脱には、IOF イベントアドバイザーの同意が必要である。
- JWSOC 2.14 選手権大会は、以下の原則に従って開催されるものとする。
  - 各連盟の最高のジュニアスキーオリエンティアに対して、技術的に高品質の競技が提供されるものとする。
  - 大会は、競争的な雰囲気であるよりはむしろ、経験の交換に重きを置いた社交的な雰囲気であるものとする。
  - 参加費用は低く抑えられるものとする。

### 3. 大会プログラム

- 3.1 大会の日付およびプログラムは、主催者によって提案され、IOF 理事会によって承認される。
- WSOC 3.2 スキーオリエンテーリング世界選手権は、奇数年ごとに開催される。プログラムには、スプリント、ミドルおよびロングディスタンス競技、混合スプリントリレー、およびリレーと、開会式、閉会式、および適切なモデルイベントと休養日が含まれるものとする。ミドルおよびロングディスタンス競技は、個人レース競技である。ロングディスタンス競技またはミドルディスタンス競技のいずれかは、マススタートとする。スプリントディスタンス競技は、男女ともに平行予選レースヒートによる予選・決勝レース競技として開催できる。プログラムは 7 日間を超えないものとする。
- WCup 3.3 ワールドカップは、偶数年ごとに開催される。個人ワールドカップは、個人大会に基づく。国内ワールドカップは、すべての大会（個人およびリレー）に基づく。
- WCup 3.4 IOF 理事会は、ワールドカップ大会の数と種類および必要な特別規則を決定する。
- WCup 3.5 ワールドカップ大会は、個別に、または別の大会と組み合わせて開催できる。同じ日に別の競技が開催される場合は、ワールドカップ競技の前後いずれかに行われるものとする。

- WCup 3.6 ワールドカップの各シーズンの最初の個人競技は、すべての競技者に等しい条件を与えるために、マススタートによるミドルディスタンスまたはロングディスタンス競技とする。
- JWSOC 3.7 スキーオリエンテーリングジュニア世界選手権は、毎年開催される。プログラムには、ロングディスタンス単一レース競技、ミドルディスタンス単一レース競技、スプリント単一レース競技、およびリレーと、開会式、閉会式、および適切な休養日とモデルイベントが含まれるものとする。プログラムは6日間を超えないものとする。
- WMSOC 3.8 スキーオリエンテーリングマスターズ世界選手権は、毎年開催される。プログラムには、1つの予選・決勝レース競技と適切なトレーニングまたはモデルイベントが含まれるものとする。競技は2つのミドルディスタンスレースと1つのロングディスタンスレースで構成される。プログラムは4日間を超えないものとする。
- WRE 3.9 IOF 世界ランキングイベントに選定される大会は、IOF が定めた基準に従って、連盟によって選ばれる。

#### 4. 大会申請

- 4.1 いずれの連盟も、IOF 大会の開催を申請することができる。
- 4.2 申請は、連盟によって IOF 事務局に送付されるものとする。公式申請書が使用されるものとし、申請書には必要な情報と保証のすべてが記載されるものとする。
- 4.3 IOF 理事会は、IOF 大会に公認料を課すことができる。公認料の金額は、大会申請締切日の6か月前までに発表されるものとする。
- 4.4 IOF 理事会は、主催者が規則、規範、IOF イベントアドバイザーの指示、または申請書で提出された情報に従わなかった場合、大会の認可を無効にできる。この場合、主催者は損害賠償を請求できない。
- WSOC 4.5 申請書は、選手権大会開催年の3年前の1月1日までに受領されるものとする。主催連盟は、同年、IOF 議会によって指名される。指名に先立ち、申請者は IOF と契約を締結しなければならない。
- WCup  
JWSOC  
WMSOC 4.6 申請書は、選手権大会開催年の3年前の1月1日までに受領されるものとする。主催者または主催連盟の仮指名は、同年の10月31日までに IOF 理事会によって行われる。各指名は、6か月以内に大会開催契約の締結によって確定されなければならない。さもなければ、理事会は代替の指名を行うことができる。
- WCup 4.7 各連盟は複数の申請書を優先順位を付けて提出することができる。
- WRE 4.8 IOF 理事会は、シーズン前の6月末までに、当該年の各連盟の WRE 割り当てと、これらの大会が満たさなければならない基準を示すものとする。申請書はシーズン前の9月30日までに提出されるものとし、同年10月31日までに IOF 理事会によって承認または却下されるものとする。

#### 5. クラス

- 5.1 競技者は、性別と年齢に従って、複数のクラスに分けられる。女子は、男子のクラスに出場してもよい。
- 5.2 20歳以下の競技者は、特定の年齢に達する暦年の年末まで、そのクラスに属する。21歳以上のクラスで競技する権利がある。
- 5.3 21歳以上の競技者は、特定の年齢に達する暦年の年頭から、そのクラスに属する。21歳以下のクラスで競技する権利がある。
- WRE 5.4 競技クラスは、女子と男子のそれぞれについて W21 と M21 と呼ばれる。

- WRE 5.5 W21 および M21 クラスは、連盟によってエリート競技者として分類された競技者、または連盟のランキング方式での順位に基づいて選出された競技者に制限される。
- WRE 5.6 クラスへのエントリーが多すぎる場合、競技者の以前の成績に基づいて平行クラスに分割してもよい。
- WSOC  
WCup 5.7 個人競技とリレー競技の両方で、女子のクラスが 1 つ、男子のクラスが 1 つある。年齢制限はない。
- JWSOC 5.8 個人競技とリレー競技の両方で、女子のクラスが 1 つ、男子のクラスが 1 つある。クラス W20 または M20 で競技する権利を持つ競技者だけが参加できる。
- WMSOC 5.9 以下のクラスが設けられるものとする。W35, M35, W40, M40, W45, M45, W50, M50, W55, M55, W60, M60, W65, M65, W70, M70, W75, M75, W80, M80, W85, M85. 主催者の裁量で、より高齢のオリエンティアのためのクラス (W90, M90 など) を設けてもよい。

## 6. 参加

- WSOC  
WCup  
JWSOC  
ROC  
WRE 6.1 競技者は 11 月から 10 月までの 12 か月間に 1 つの連盟のみの代表となることができる。
- WSOC  
WCup  
JWSOC  
ROC  
WRE 6.2 連盟を代表する競技者は、その連盟国のパスポートを所持する完全な市民権を持つものとする。
- WSOC  
WCup  
JWSOC 6.3 参加する各連盟は、チームと主催者の間の連絡担当者となるチームマネージャーを任命するものとする。チームが必要な情報のすべてを受け取っていることを確認するのは、チームマネージャーの義務である。
- 6.4 競技者は、自分の責任において参加する。事故に備えた保険は、国の規制に従って、連盟または競技者自身の責任とする。
- WSOC 6.5 すべての競技者は、1 つの連盟を代表する。各連盟は、人数無制限の競技者と複数名のチーム役員から成るチームをエントリーさせることができる。主催者は、使用可能な設備に応じて、チームあたりの最大役員数を定めるものとする。この最大数は、各チームとも同数とし、5 名以上とする。
- WSOC 6.6 各個人競技では、すべての連盟が最大 4 名の女子と 4 名の男子をエントリーさせることができ、さらに、各ディスタンス競技の現世界チャンピオンは、自分が属する連盟チームのメンバーとして、その連盟からエントリーできる。スプリント競技が予選・決勝レース競技であり、同位入賞者がいなかった場合、各ヒートから決勝に進出できる人数は、決勝進出者が合計 30 名 (または 30 名以上で可能な限り少ない人数) になるように決められるものとする。
- WSOC 6.7 リレーでは、各連盟は 1 つの女子チームと 1 つの男子チームを参加させることができ、1 チーム 3 名である。複数の連盟からの競技者で構成されるチームは許されないが、不完全なチームはスタートできる。いかなる状況でも、エントリーした競技者以外の個人 (規則 6.5) が競技に参加することはできない。

- |               |      |  |
|---------------|------|--|
| WSOC          | 6.8  | 混合スプリントリレーでは、各連盟は、2名で構成される1チームをエントリーでき、2名のうち少なくとも1名は女子でなければならない。複数の連盟からの競技者で構成されるチームは許されず、不完全なチームはスタートできない。いかなる状況でも、エントリーした競技者以外の個人（規則6.5）が競技に参加することはできない。 |
| WCup          | 6.9  | すべての競技者は、1つの連盟を代表する。各連盟は、それぞれの個人競技に最大6名の女子と6名の男子を参加させることができる。ワールドカップ大会が地域選手権と同時開催される場合、各フォーマットのその地域の現地域チャンピオンは、連盟の割り当てに加えて、そのフォーマットのワールドカップ大会に参加することが許される。 |
| WCup          | 6.10 | 各連盟は、各リレー競技に最大2つの女子チームと2つの男子チームを参加させることができ、それぞれ3名の競技者で構成される。連盟は6名を超える男子および6名を超える女子を競技に参加させることはできない。  |
| WCup          | 6.11 | 主催連盟は、個人競技に追加で2名の競技者をワールドカップ公式競技者として参加させることができる。これらの競技者は、最下位のランクのスタートグループでスタートするものとする。   |
| JWSOC         | 6.12 | すべての競技者は、1つの連盟を代表する。各連盟は最大14名の競技者（女子7名、男子7名）の1チームと無制限の人数のチーム役員を参加させることができる。  |
| JWSOC         | 6.13 | 各個人競技では、各連盟は最大6名の女子と6名の男子を参加させることができる。   |
| JWSOC         | 6.14 | リレーでは、各連盟は最大2つの女子チームと2つの男子チームを参加させることができ、1チーム3名である。  |
| WCup<br>JWSOC | 6.15 | 連盟が完全なリレーチームを構成できない場合、不完全なチームまたは他の連盟からの競技者との混成チームを構成してもよい。いかなる状況でも、競技にエントリーした競技者以外の個人が競技に参加することはできない。  |

## 7. 費用

- 7.1 大会の開催費用は、主催者の責任である。競技の費用を賄うために、主催者は競技者に参加費を、非競技者（チーム役員、メディアなど）に認定料を課すことができる。この料金は可能な限り低く抑えられるものとし、IOF イベントアドバイザーの承認を得るものとする。複数の競技から成る大会については、主催者は競技者に、エントリーした競技ごとの参加費というオプションを提供しなければならない。参加費は個人レース単位であるが、割引パッケージとして提供することもできる。追加の競技者認定料は許されない。IOF イベントアドバイザーは、確認された実費に基づいて、輸送費、サードパーティ料金など、その他の料金を承認することができる。
- 7.2 各連盟または個々の競技者は、招待状に記載されている参加費を支払う責任がある。参加費の支払い期限は、大会の6週間前より早くないものとする。
- 7.3 遅れエントリーには追加料金を課すことができる。追加料金の金額は、IOF イベントアドバイザーによって承認されるものとする。
- 7.4 各連盟または個々の競技者は、会場までの交通費、宿泊費、食費、および宿泊所、イベントセンター、および競技会場間の交通費を支払う責任がある。主催者によって提供される競技会場までの公式輸送手段またはその他のサービスの使用が必須である場合、参加費にはこれらの費用が含まれるものとする。
- 7.5 IOF によって任命されたイベントアドバイザーおよびアシスタントの開催地までの交通費は、IOF によって支払われるものとする。準備のための滞

在および大会当日の現地での費用は、国家合意に従って、主催者または主催者の連盟によって支払われる。

- 7.6 連盟によって任命された IOF イベントアドバイザーおよびアシスタントの費用はすべて、国家合意に従って、主催者または連盟によって支払われるものとする。
- 7.7 非常に安価で良い標準の宿泊と食事が無い限り、競技者が価格帯を選択できるように、さまざまな標準の宿泊と食事が提供されるものとする。競技の参加費、食費、および宿泊費は、3つの個別の金額として示されなければならない。いかなる場合も、主催者が用意した宿泊施設の使用を義務付けられないものとする。
- 7.8 大会（または大会の一部）をキャンセルしなければならない場合、主催者は支払いを約束した費用を賄うために、参加費の最低限の一部を保持できる。

WSOC  
WCup  
JWSOC

## 8. 大会に関する情報

- 8.1 すべての情報と式典は、少なくとも英語とする。公式情報は書面で与えられるものとする。チームオフィシャルミーティングでの質問に対する回答、または緊急の場合のみ、口頭でもよい。

WSOC  
WCup  
JWSOC

- 8.2 主催者または IOF イベントアドバイザーからの情報は、ブリテン (bulletins) の形で与えられるものとする。ブリテンは、IOF Web サイトで、または IOF Web サイトへのリンクによって公表されるものとする。ブリテン 3 が公表されたという通知は、参加しているすべての連盟に電子メールで送付されるものとする。詳細情報が必要な場合は、該当するすべての連盟に与えられるものとする。

WSOC  
WCup  
JWSOC

- 8.3 ブリテン 1 (予備情報) には、以下の情報が含まれるものとする。
- ・ 主催者、大会ディレクター、イベントアドバイザー、およびコントローラーの氏名
  - ・ 情報問い合わせ先の住所と電話番号/FAX 番号/電子メールアドレス/Web ページ
  - ・ 開催地
  - ・ 日付と競技の種類
  - ・ クラスと参加制限
  - ・ トレーニングの機会
  - ・ 地域の一般的な地図
  - ・ 立入禁止区域
  - ・ 特記事項
  - ・ 立入禁止区域の最新版のオリエンテーリング地図のカラーコピー

WSOC

WSOC  
WCup  
JWSOC

- 8.4 ブリテン 2 (招待状) には、以下の情報が含まれるものとする。
- ・ ブリテン 1 に記載されたすべての情報
  - ・ 正式エントリーおよび宿泊申し込みフォーム
  - ・ エントリー最終日と宛先 (9.6 を参照)
  - ・ 競技者とチーム役員の参加費
  - ・ 参加費の支払いの最終日と宛先
  - ・ 宿泊施設と食事の種類と費用
  - ・ 公式宿泊施設の予約の最終日
  - ・ 提供される輸送手段の説明
  - ・ 入国許可 (ビザ) を取得するための指示
  - ・ トレーニング機会の詳細
  - ・ テレイン、標高、気候、および危険事項の説明
  - ・ 大会プログラム
  - ・ 地図の縮尺、等高線間隔、および追加または変更された記号
  - ・ 各コースの優勝記録とおよその長さ

WCup  
JWSOC  
WSOC  
WCup  
JWSOC

- ・ 広報担当者の住所と電話番号/FAX 番号/電子メールアドレス
- ・ 各競技エリアとフィニッシュエリアの正確な位置 (決定済みの場合)
- ・ 立入禁止区域の以前のスキーオリエンテーリングまたはオリエンテーリング地図の最新版のカラーコピー
- ・ メディア代表者と連盟の追加代表者の登録に関する指示

WSOC  
WCup  
JWSOC

- 8.5 ブリテン 3 (大会情報) には、以下の情報が含まれるものとする。
- ・ 参加者の正確な人数の送付の最終日 (9.6 を参照)
  - ・ 参加者の氏名の送付の最終日 (9.7 を参照)
  - ・ 最終的な名前エントリーとスタートグループの割り当てのタイムテーブルを含め、大会の詳細なプログラム
  - ・ テレインの詳細
  - ・ 地図のサイズ
  - ・ エントリー状況の要約
  - ・ 許可された、規則からの逸脱
  - ・ 競技事務局の住所と電話番号/FAX 番号/電子メールアドレス
  - ・ 宿泊施設と食事の詳細
  - ・ 移送スケジュール
  - ・ チームオフィシャルミーティング
  - ・ 各競技エリアとフィニッシュエリアの正確な位置

WSOC  
WCup  
JWSOC

- 8.6 ブリテン 4 (追加の大会情報) は、競技者の到着時に与えられるものとし、以下を含む大会情報の最終的な詳細を含むものとする。
- ・ 個人競技の各コースとリレー競技の各レグの長さ、合計登坂距離、コントロールの数、およびリフレッシュメントコントロールの数
  - ・ アンチドーピング要件
  - ・ 大会に関するすべての特別規則
  - ・ 承認された追加規定と規則逸脱
  - ・ 申し立ての時間制限
  - ・ 申し立てを行う場所
  - ・ 最大スキー時間
  - ・ 裁定委員の氏名と所属連盟

ブリテン 4 には可能な限り多くの情報を記載して、チームオフィシャルミーティングで伝達しなければならない情報を最小限にすべきである。

WSOC

- 8.7 ブリテン 1 は大会の 24 か月前に公表されるものとし、ブリテン 2 は大会の 10 か月前に公表されるものとし、ブリテン 3 は大会の 2 か月前に公表されるものとする。

WCup  
JWSOC

- 8.8 ブリテン 1 は大会の 12 か月前に公表されるものとし、ブリテン 2 は大会の 6 か月前に公表されるものとし、ブリテン 3 は大会の 2 か月前に公表されるものとする。

WMSOC  
WRE

- 8.9 主催者からの情報は、2 つのブリテンの形で与えられるものとする。ブリテン 1 および 2 は、IOF Web サイトを通じてインターネットで入手可能にされるものとする。ブリテン 3 はすべての競技者に提供される。

WMSOC

- 8.10 ブリテン 1 および 2 は大会の 12 か月前に入手可能にされるものとし、ブリテン 3 は大会の 1 か月前に入手可能にされるものとする。

WRE

- 8.11 ブリテン 1 および 2 は大会の 4 か月前に入手可能にされるものとし、ブリテン 3 は大会の 1 週間前に入手可能にされるものとする。

WMSOC  
WRE

- 8.12 ブリテン 1 および 2 (予備情報と招待状) には、以下の WRE 情報が含まれるものとする。

- ・ 主催者、大会ディレクター、およびコントローラーの氏名
- ・ 情報問い合わせ先の住所と電話番号/FAX 番号/電子メールアドレス/Web

ページ

- ・ 開催地
- ・ 日付と競技の種類
- ・ クラスと参加制限
- ・ 地域の一般的な地図
- ・ 立入禁止区域
- ・ 特記事項
- ・ 正式エントリーフォーム
- ・ エントリー最終日と宛先
- ・ 競技者の参加費
- ・ 参加費の支払いの最終日と宛先
- ・ 宿泊施設と食事の種類と費用
- ・ 提供される輸送手段の説明
- ・ 入国許可（ビザ）を取得するための指示
- ・ トレーニング機会の詳細
- ・ テレイン、標高、気候、および危険事項の説明
- ・ 大会プログラム
- ・ 縮尺、等高線間隔、および追加または変更された地図記号
- ・ 予想されるウィニングタイム
- ・ テレインのタイプを示す最新のサンプル地図
- ・ 立入禁止区域の以前の地図のコピーを得る方法についての情報

WMSOC  
WMSOC

WMSOC  
WRE

- 8.13 ブリテン 3（大会情報）には、以下の情報が含まれるものとする。  
スタートリストを含め、大会の詳細なプログラム
- ・ テレインの詳細
  - ・ エントリー状況の要約
  - ・ 許可された、規則からの逸脱
  - ・ 競技事務局の住所と電話番号/FAX 番号/電子メールアドレス
  - ・ 移送スケジュール
  - ・ 地図のサイズ
  - ・ 長さ、合計登坂距離、コントロールの数、およびリフレッシュメントコントロールの数
  - ・ 申し立ての時間制限
  - ・ 申し立てを行う場所
  - ・ 最大スキー時間
  - ・ 裁定委員の氏名と所属連盟

## 9. エントリー

- 9.1 エントリーは、ブリテン 2 に記載されている指示に従って提出されるものとする。各競技者について、少なくとも以下の詳細が記載されるものとする。氏名、性別、誕生日、所属連盟。チーム役員の氏名が記載されるものとする。遅れエントリーは拒絶されることがある。
- 9.2 競技者は、1つの競技について1つのクラスにのみエントリーできる。
- 9.3 主催者は、参加費が未払いの場合、および支払いに関する合意に達していない場合、競技者またはチームをスタートから除外できる。
- 9.4 宿泊施設の予約申し込みと予約料は、ブリテン 2 に記載された期日までに主催者に届けられるものとする。
- 9.5 競技者は、所属連盟によってのみ選出され、エントリーできる。
- 9.6 各性別の競技者の数、リレーチームの数、チーム役員の数、およびチームマネージャーの氏名、住所、電子メールアドレス、電話/FAX 番号を記載したエントリーが、大会の2か月前までに主催者に届けられるものとする。

WSOC  
WCup  
JWSOC

WSOC  
WCup  
JWSOC

WSOC  
WCup  
JWSOC

- WSOC  
WCup  
JWSOC
- 9.7 各競技者の氏名と性別、およびチーム役員の氏名が、大会の10日前までに主催者に届けられるものとする。最初の競技の前日の15:00までは変更可能である。
- WSOC  
WCup  
JWSOC
- 9.8 競技者の氏名とスタートグループの割り当て（必要な場合）、またはリレーチーム内の出走順は、競技前日の15:00までに主催者に届けられるものとする。
- WSOC  
WCup  
JWSOC
- 9.9 最初のスタートの1時間前を過ぎてから競技者を交代することはできない。これは、リレーのチームメンバーの出走順にも適用される。
- WSOC  
WCup  
JWSOC
- 9.10 個人競技では、競技前日の15:00からクラス内の最初のスタートの1時間前までの間に、正当な理由（事故または病気）で競技者を交代できる。スタートグループまたは予選レースのヒートの変更は許されない。予選・決勝レース競技または複数レース競技の決勝では、最初のレース後の交代はできない。スタート順の抽選後は、レッドグループの交代は許されない。
- WSOC  
WCup  
JWSOC
- 9.11 リレーでは、リレーチームメンバーの氏名および/または出走順の変更は、リレーの開始1時間前までに主催者に届けられるものとする。
- WSOC  
JWSOC
- 9.12 大会前日の15:00を過ぎてからの競技者の交代は、エントリー済みのチームの中でのみ可能である。
- WSOC  
WCup  
JWSOC
- 9.13 各個人競技では、各連盟は競技者を指定のスタートグループに割り当てるものとする。グループに2人目の競技者を割り当てる前に、連盟は各グループに1名の競技者を割り当てるものとする。連盟が競技者をスタートグループに割り当てることができない場合は、主催者が割り当てを決定するものとする。

## 10. 交通および輸送

- WSOC  
WCup  
JWSOC
- 10.1 各連盟は、自身の移動の手配に責任を持つ。
- WSOC  
WCup  
JWSOC
- 10.2 要請があった場合、主催者は最寄りの国際空港または鉄道駅からイベントセンターまたは宿泊施設までの輸送チームを手配するものとする。チームは、このサービスの料金を支払わなければならないことがある。
- WSOC  
WCup  
JWSOC
- 10.3 宿泊施設、イベントセンター、競技会場などの間の輸送は、主催者またはチームが手配してもよい。要請があった場合、主催者は大会期間中の必要な輸送のすべてを手配するものとする。
- 10.4 主催者は、競技会場への公式輸送手段の使用を義務付けることができる。

## 11. トレーニングおよびモデルイベント

- 11.1 要請があった場合、競技前にトレーニングの機会が与えられるものとする。
- 11.2 大会の最初の競技の前日、主催者は、トレインのタイプ、地図の品質、さまざまな種類のトラック、コントロールの設置、リフレッシュメントポイント、および誘導をデモンストレーションするモデルイベントを設けるものとする。
- 11.3 競技者、チーム役員、IOF役員、およびメディア代表者は、モデルイベントに参加する機会を提供されるものとする。
- 11.4 IOF イベントアドバイザーが必要とみなした場合には、さらに追加のモデルイベントが開催されるものとする。
- 11.5 IOF イベントアドバイザーが適切とみなした場合には、競技当時にモデル

イベントを開催してもよい。

- WSOC 11.6 すべての連盟に等しいトレーニングの機会が提供されるものとする。主催者は選手権の 15 か月前にトレーニングの機会を提供するものとする。テレビ中継と地図は、可能な限り、選手権のものと同様であるべきである。

## 12. スタート順とヒート割り当て

- 12.1 インターバルスタートでは、競技者は等しいスタート間隔で一人ずつスタートする。マススタートでは、クラス内のすべての競技者が同時にスタートする。リレーでは、最初のレッグに出走するチームメンバーのみにこれが適用される。チェイシングスタートでは、前回の結果によって決まるスタート時刻と間隔で、競技者が一人ずつスタートする。

- 12.2 スタート順は、IOF イベントアドバイザーによって承認されるものとする。スタート抽選は、公開でも非公開でもよい。抽選は、手で行っても、コンピューターを使用してもよい。

- 12.3 スタートリストは、競技の前日またはそれ以前に、規則 13.1 に従って開催されなければならないチームオフィシャルミーティングの前に公表されるものとする。予選レースが決勝と同じ日に開催される場合、決勝のスタートリストは、最初のスタートの 1 時間前までに公表されるものとする。

- 12.4 競技者が到着していない場合でも、正しくエントリーしたすべての競技者とチームの名前が抽選されるものとする。名前のない（白紙の）エントリーは、抽選対象とはみなされない。スタートグループの割り当てが期日までに受領されていなかった場合、主催者は競技者をスタートグループに割り当てることができる。

- 12.5 極端な天候条件（吹雪など）では、主催者と IOF イベントアドバイザーはスタートの延期を決定できる。そのような天候でのチェイシングスタートレースでは、主催者と IOF イベントアドバイザーは、代わりにインターバルスタート手順を使用することを決定できる。この場合、スタートリストは、競技の最初の部分の結果リストと逆の順序になる。

- WSOC WCup 12.6 予選・決勝レース競技の決勝以外のインターバルスタートでは、スタート順は無作為抽選とする。抽選は、3 つの無制限のスタートグループと 1 つの制限されるグループ（レッドグループ）で行われるものとする。

- JWSOC 12.7 スタート順は、無作為抽選とする。抽選は、3 つの無制限のスタートグループで行われるものとする。

- WSOC WCup JWSOC 12.8 インターバルスタートの場合、制限されるスタートグループ内を除き、同じ連盟からの競技者が連続してスタートすることはできない。抽選の結果、連続してスタートすることになった場合には、次に抽選した競技者が彼らの間に挿入されるものとする。抽選の最後、またはスタートグループの最後にこのようになった場合は、前の競技者が彼らの間に挿入されるものとする。

- WSOC 12.9 予選・決勝レース競技では、予選レースのスタート抽選は、以下の要件のそれぞれが満たされるように行われるものとする。
- 平行ヒートと同じ数の競技者が各スタート時刻にスタートするものとするが、最後のスタート時刻は例外になる場合がある。
  - 可能な限り、世界ランキングのポイントに基づいて、各ヒートは等しい強度とする。
  - 同じ連盟の競技者が同じヒートにいる場合、連続してスタートしないものとする。
  - 異なるヒートへの競技者の割り当ては、同じ連盟の競技者がヒート間

で数学的に可能な限り等しく分散されるように抽選で決定されるものとする。

- |                       |           |   |
|-----------------------|-----------|---|
| WSOC                  | 12.1<br>0 | 予選・決勝レース競技では、決勝のスタート順は、予選レースのヒートの順位<br>の逆順とする。すなわち、最上位の競技者が最後にスタートする。タイ<br>の場合は、くじ引きによって決めるものとする。たとえば、2人の競技<br>者がヒート1で同着6位になった場合、この規則の目的では、コイントス<br>で6位と7位を決定するものとする。異なる平行ヒートで同位の競技者<br>は、ヒート番号順に（ヒート1、ヒート2、ヒート3...）スタートするも<br>のとする。したがって、最も大きい番号のヒートの勝者が最後にスタート<br>する。   |
| WSOC                  | 12.1<br>1 | 予選・決勝レース競技の決勝で同じ連盟の競技者が連続するスタート時刻<br>になった場合、スタートリストの最後（すなわち、最後のスターター）か<br>ら始めて、以下の手順が行われる。スタート時刻が連続する同じ連盟の2<br>人の競技者の前にスタートする別の連盟の最後のスターターが、スタート<br>リストのこの2人の競技者の間に挿入される。同じ連盟の2人以上の競技<br>者が、スタートリストの始めの連続するスタート時刻に残った場合は、逆<br>の手順が行われる。例：A <sub>1</sub> 、A <sub>2</sub> 、A <sub>3</sub> 、B、C、D、E <sub>1</sub> 、E <sub>2</sub> 、E <sub>3</sub> □ A <sub>1</sub> 、A <sub>2</sub> 、A <sub>3</sub> 、B、C、<br>E <sub>1</sub> 、E <sub>2</sub> 、D、E <sub>3</sub> → A <sub>1</sub> 、A <sub>2</sub> 、A <sub>3</sub> 、B、E <sub>1</sub> 、C、E <sub>2</sub> 、D、E <sub>3</sub> →（逆の手順） → A <sub>1</sub> 、B、A <sub>2</sub> 、<br>A <sub>3</sub> 、E <sub>1</sub> 、C、E <sub>2</sub> 、D、E <sub>3</sub> → A <sub>1</sub> 、B、A <sub>2</sub> 、E <sub>1</sub> 、A <sub>3</sub> 、C、E <sub>2</sub> 、D、E <sub>3</sub> 。 |
|                       | 12.1<br>2 | マススタートの抽選の前に、さまざまなコースの組み合わせのそれぞれに<br>スタート番号を割り当てておくものとする。同じ連盟の競技者（ループの<br>個人大会）またはチーム（リレー）は、同じコースの組み合わせにならな<br>いものとする。個人競技のマススタートでは、エントリーした競技者に世<br>界ランキングに従ってスタート番号が与えられ、最も高いランキングの競<br>技者に番号1が与えられる。コースの組み合わせは、最後の競技者がスタ<br>ートするまで秘密に保たれるものとする。   |
| WSOC                  | 12.1<br>3 | 予選・決勝レースでは、各競技者のヒート割り当ては、IOF イベントアド<br>バイザーの監督の下で抽選されるものとする。各競技者のヒート割り当て<br>は、競技者のスタート後まで競技者には明かされないものとする。  |
| WSOC<br>WCup<br>JWSOC | 12.1<br>4 | リレーでは、エントリーしたチームには、それぞれの大会での同じ種類の<br>最後のリレーでの順位に従ってスタート番号が与えられる。最近のそれぞ<br>れの大会で順位がつかないチームには、連盟の略語のアルファベット<br>順で後続のスタート番号が与えられる。さまざまなコースの組み合わせの<br>スタート番号への割り当ては、IOF イベントアドバイザーによって監督さ<br>れるものとする。割り当ては、最後の競技者がスタートするまで秘密に保<br>たれるものとする。   |
| WCup<br>JWSOC         | 12.1<br>5 | 人数の揃わないリレーチームと、複数の連盟の競技者から成るチームは、<br>正規のリレースタートと同時にスタートするものとする。   |
|                       | 12.1<br>6 | インターバルスタートでは、通常のスタート間隔は、ロングディスタンス<br>では2分、ミドルディスタンスでは2分、スプリントでは1分である。特<br>殊な状況では、主催者とIOF イベントアドバイザーは、より短い、または<br>より長いスタート間隔を決定できる。  |
| WSOC<br>WCup          | 12.1<br>7 | 最後のスタートグループ（グループ4）は「レッドグループ」とも呼ば<br>れ、制限される。レッドグループのメンバーシップとレッドグループ内の<br>スタート順は、特別規則に従うものとする。   |
| WSOC<br>WCup          | 12.1<br>8 | マススタートの個人レースでは、以下のスタート順が使用される。<br>・ 列1 レッドグループ<br>・ 列2 スタートグループ3<br>・ 列3 スタートグループ2<br>・ 列4 スタートグループ1  |
| WSOC<br>WCup          | 12.1<br>9 | スタートグループのスタート順は、通常、番号順に連続する。すなわち、<br>1、2、3、レッドグループ（JWSOCを除く）。特殊な降雪または気象条件に  |

- JWSOC よる制限グループ（レッドグループ）のスタート位置の変更は、最初のスタートの2時間前までに、主催者とIOFイベントアドバイザーによって決定できる。
- WMSOC 12.2 最初のレースのスタート順は、無作為抽選とする。2番目のレースのスタート順は、最初のレースのスタート順の逆順とする。3番目のレースのスタート順は、最初の2つのレースの結果の組み合わせによって決められ、総合得点が最も高い競技者が最後にスタートする。同点の場合は、最初のレースでの得点によってスタート順が決まる。
- WRE 12.2 1 競技者は最近公表されたIOF世界ランキングリストに従ってスタートし、最も高いランキングの競技者が最後にスタートする。世界ランキングのポイントがない競技者は、ランダムな順序で最初にスタートする。2人の競技者のランキングが同じ場合、単一得点が高い方の競技者が最後にスタートする。

### 13. チームオフィシャルミーティング

- WSOC 13.1 主催者は、競技の前日にチームオフィシャルミーティングを開催するものとする。この会議は19:00までに開始するものとする。IOFイベントアドバイザーは、会議の進行役を務めるか、監督するものとする。
- WSOC 13.2 競技の資料（スタートリスト、コントロールカード、輸送スケジュール、最新情報、天気予報など）は、会議の開始前に配布されるものとする。最終的なスタートリスト、スタート番号ゼッケン、およびコントロールカードは、それより遅く配布してもよいが、遅くとも21:00までには配布される。
- WSOC 13.3 チーム役員は、会議中に質問の機会を与えられるものとする。
- WCup  
JWSOC
- WMSOC 13.4 チームオフィシャルミーティングはない。
- WRE

### 14. テレイン

- 14.1 テレインは、競技用のスキーオリエンテーリングコースの設定に適しているものとする。テレインと競技場の選定において、また、コース設計の際には、ライブニッツ協定の目標が考慮されるものとする。これには、大規模なトラックシステムを備えた既存のスキー競技場施設の使用および再利用が伴う場合がある。
- 14.2 主要なIOFスキーオリエンテーリング大会のテレインの決定とプランニングの際には、付録8「主要なスキーオリエンテーリング大会でのテレインの使用に関するガイドライン」に記載されている基準に従うものとする。
- 14.3 競技テレインは、決定しだい、立ち入り禁止にされるものとする。それが不可能な場合には、可能な限り速やかに、テレインへのアクセスに関する取り決めが公表されなければならない。付録8のガイドラインに従うものとする。
- 14.4 必要な場合、立入禁止テレインへのアクセス許可は、主催者から要求されるものとする。
- 14.5 当該地区の自然保護、林業、狩猟などの権利が尊重されるものとする。

### 15. 地図

- 15.1 地図、コースのマーキング、および追加の重ね刷りは、「IOFオリエンテーリング地図の国際仕様」に従って作成され、印刷されるものとする。逸脱には、IOF理事会の承認が必要である。

- 15.2 地図の間違い、および地図の印刷後にテレインに生じた変化は、大会に影響する場合、地図に重ね刷りされるものとする。
- 15.3 地図は、湿気と損傷から保護されるものとする。
- 15.4 競技エリアの以前のオリエンテーリング地図またはスキーオリエンテーリング地図が存在する場合、競技前日に、すべての競技者に対して、最新版のカラーコピーが表示されなければならない。
- 15.5 競技当日、競技者またはチーム役員による競技エリアの地図の使用は、主催者によって許可されるまで禁止される。
- 15.6 競技地図は、競技者がコースを滑走するために必要とする以上に大きくてはならない。地図は、片面のみに印刷されるものとする。
- WMSOC 15.7 45 歳以上の年齢クラス向けの地図は 1:10000 の縮尺とし、IOF イベントアドバイザーが承認した場合には、この縮尺をすべてのクラスで使用してもよい。
- 15.8 IOF と加入連盟は、主催者に料金を支払わずに、自身の公式出版物または Web サイトに、コースを記載した大会地図を複製する権利を持つものとする。
- 16. コース**
- 16.1 IOF コースプランニングの原則（付録 5 を参照）およびライブニッツ協定（付録 7 を参照）に従うものとする。
- 16.2 コースの水準は、国際スキーオリエンテーリング大会にふさわしいものとする。競技者のナビゲーションスキル、集中力、およびスキー技能が試されるものとする。すべてのコースは、さまざまなオリエンテーリング技術の範囲を必要とするものとする。スプリントコースは、特に、コース全体を通じて高いレベルの集中力、詳細な地図読解力、および頻繁な意思決定を必要とするものとする。ロングディスタンスコースはルート選択を必要とするものとするが、ミドルディスタンスコースは、スプリントコースとロングディスタンスコースの要件の混合にできる。
- 16.3 コースの長さは、2 種類の方法で与えられるものとする。
- ・ スタートからコントロールを經由してフィニッシュまでの直線距離の長さとして。ただし、物理的に通行不能な障害物（高いフェンス、通行不能な崖など）、立入禁止エリア、および誘導は例外である。
  - ・ スタートからコントロールを經由してフィニッシュまで、最短と思われるルート選択に従って。
- 16.4 合計登坂距離は、最短と思われるルートに沿った登坂距離（メートル）として与えられるものとする。
- 16.5 コースの合計登坂距離は、最短と思われるルート選択の長さの 6% を超えるべきではない。
- WSOC  
WCup 16.6 予選レースの場合、平行ヒートのコースは、可能な限り同じ長さおよび水準とする。
- 16.7 リレー競技では、コントロールの並びはチームによって異なるものとするが、全体としては、すべてのチームが同じコースを滑走するものとする。一般に、各レッグのウィニングタイムは、可能な限り同じであるべきである。ただし、特定の場合には（混合リレー、年齢別など）、レッグの長さが異なってもよい。ただし、レッグのウィニングタイムの合計は、規定通りに維持されるものとする。すべてのチームが異なる長さのレッグを同じ順序で滑走しなければならない。混合スプリントリレーでは、主催者は、女子が滑走しなければならないレッグを指定するものとする。

16.8 個人競技では、コントロールの並びは競技者によって異なってよいが、全体としては、すべての競技者が同じコースを滑走するものとする。

WSOC 16.9 コースは、以下のウィニングタイム（分）になるように設定されるものとする。

女子	男子	
75-90	95-100	ロングディスタンス
40-45	40-45	ミドルディスタンス
10-15	10-15	スプリント
30-35	30-35	リレーの各レッグ
100 (3 レッグ)	100 (3 レッグ)	リレー、すべてのレッグの最速タイムの合計
6-8	6-8	スプリントリレーの各レッグ
36-48	36-48	スプリントリレー、すべてのレッグの最速タイムの合計

WCup 16.1 0 コースは、以下のウィニングタイム（分）になるように設定されるものとする。

女子	男子	
75-90	95-100	ロングディスタンス
40-45	40-45	ミドルディスタンス
10-15	10-15	スプリント
30-35	30-35	リレーの各レッグ
100	100	リレー、すべてのレッグの最速タイムの合計
120-135	150-165	エクストラロングディスタンス
6-8	6-8	スプリントリレーの各レッグ
36-48	36-48	スプリントリレー、すべてのレッグの最速タイムの合計

JWSOC 16.1 1 コースは、以下のウィニングタイム（分）になるように設定されるものとする。

女子	男子	
60-65	70-75	ロングディスタンス
25-35	25-35	ミドルディスタンス
10-15	10-15	スプリント
30-35	30-35	リレーの各レッグ
95	95	リレー、すべてのレッグの最速タイムの合計

WMSOC 16.1 2 コースは、以下のロングディスタンスウィニングタイム（分）になるように設定されるものとする。

女子	時間	男子	時間
W35	55	M35	70
W40	50	M40	65
W45	45	M45	60
W50	45	M50	55
W55	45	M55	50
W60	45	M60	50
W65	45	M65	50
W70	45	M70	50

W75	45	M75	50
W80	45	M80	50
W85	45	M85	50

現地の状況に応じて、コースの長さを変えてもよい。  
ミドルディスタンスのウィニングタイムは、ロングディスタンスのウィニングタイムの約 60%であるべきである。

## 17. 制限エリアおよびルート

- 17.1 環境保護のために主催連盟によって定められた規則と、それに関連する主催者からの指示は、大会関係者全員によって厳守されるものとする。
- 17.2 立入禁止または危険なエリア、禁じられたルート、横切ってはならない線状特徴物などが地図に印されるものとする。これらは地上にも印されるものとする。競技者は、そのようなエリアに立ち入らず、そのようなルートを取らず、またはそのような特徴物を横切らないものとする。
- 17.3 規定のルート、横断ポイント、および通行箇所は、地図と地上に明瞭に印されるものとする。競技者は、コースのうち、印を付けられたセクションの全長を走破するものとする。

## 18. コントロールの説明

- 18.1 スキーオリエンテーリングでは、コントロールの説明は使用されない。

## 19. コントロールの設置と器具

- 19.1 地図に示されたコントロールポイントは、地上に明瞭に印され、競技者の通過を証明するための器具が設置されるものとする。
- 19.2 各コントロールは、約 30cm×30cm の正方形が三角形に並べられたコントロールフラグによって印されるものとする。各正方形は対角線で区切られ、半分が白色、もう半分がオレンジ色とする (PMS 165)。
- 19.3 すべてのコントロールは競技地図に示されているトラックに適していなければならない。
- 19.4 各コントロールはコード番号によって識別されるものとし、コード番号は、競技者がマーキングデバイスを使用してコードを明瞭に読むことができるように、コントロールに固定されるものとする。31 未満の番号は使用できない。数字は白地に黒字で、高さ 5~10cm、線の太さ 5~10mm とする。上下を逆に誤読する恐れがある場合 (161 など) は、番号に下線を引くものとする。
- 19.5 コントロール番号とコード番号は、「IOF オリエンテーリング地図に関する国際仕様」の規定に従って、地図に印刷されるものとする。
- 19.6 競技者の通過を証明するために、各フラグのすぐ近くに、十分な数のマーキングデバイスが用意されるものとする。
- 19.7 想定ウィニングタイムが 45 分を超える場合、勝者の想定速度で少なくとも 30 分ごとにリフレッシュメント (給水) が設けられるものとする。
- 19.8 リフレッシュメントとして、少なくとも、適温の純水が提供されるものとする。別のリフレッシュメントが提供される場合は、明瞭に印されるものとする。
- 19.9 安全上の懸念があるコントロールはすべて、保護されるものとする。

## 20. パンチングシステム

- 20.1 付録 3 に従って、IOF 認可の電子パンチングシステムのみを使用することができる。

- 20.2 競技者には、モデルイベントで電子パンチングシステムの使用を練習する機会が与えられるものとする。
- 20.3 競技者は、各コントロールで、用意されたパンチングデバイスを使用して自分のカードをパンチする責任があるものとする。
- 20.4 コントロールカードには、すべてのコントロールを通過したことが明確に示されていないなければならない。
- 20.5 コントロールパンチが欠落しているか、識別不能な競技者は、パンチの欠落または識別不能が競技者の責任ではないことが明確に立証されない限り、失格となるものとする。この例外的な状況では、コントロール役員またはカメラまたはコントロール機器の表示値など、競技者がコントロールを通過したことを証明する他の証拠を使用してもよい。それ以外のどのような状況でも、そのような証拠は認められず、競技者を失格としなければならない。SportIdent の場合、この規則は以下のことを意味する。
- 1台の機器が機能していない場合、または機能していないように見える場合、競技者は用意されたバックアップ機器を使用しなければならない。パンチが記録されていない場合は失格となる。
  - 競技者のパンチが速すぎてフィードバック信号を受け取れなかった場合、カードにはパンチの記録がないので、（コントロール危機に競技者のカード番号が記録されていた場合でも）競技者を失格としなければならない。
- 20.6 主催者は、指定したコントロールで役員にコントロールカードをチェックさせる権利を持つ。
- 20.7 コントロールカードを紛失した競技者、コントロールを飛ばした競技者、または正しくない順序でコントロールを通過した競技者は、失格とする。

## 21. 器具

- 21.1 主催連盟の規則に別の指定がない限り、衣類の選択は自由とする。
- 21.2 スタート番号ゼッケンは、明瞭に見えるように、主催者によって指示されたように着用されるものとする。足に付ける場合、ゼッケンは 20cm×24cm 以下とし、文字の高さは少なくとも 10cm とする。番号ゼッケンを折りたたんだり、切ることはできない。
- 21.3 競技中、競技者が使用できるナビゲーションツールは、主催者から提供された地図と、コンパスだけである。
- 21.4 競技者は、スタートからコントロールを経由してフィニッシュまで、自分のスキーとスキーポールを使用または運搬するものとする。ただし、競技者は破損または損傷した器具をコースに残していくことができる。
- 21.5 すべてのチームは、スキー、ビンディング、スキー靴、スキーポール、およびその他の器具を、スタートおよびフィニッシュエリアで、また、長距離の場合は、1 つ以上の事前に決められたコントロールで預ける機会を与えられるものとする。破損していないスキー器具は、これらの指定エリアでのみ交換することができ、交換時の支援（コーチなどからの）は許されない。
- 21.6 主催者によって承認されない限り、競技者は、レースのプレスタートエリアへの入場からフィニッシュへの到達まで、通信機器を使用または携帯することはできない。ディスプレイまたは音声フィードバックのない GPS データロガーは、主催者が特に使用を禁止しない限り、使用することができる。主催者は、競技者にトラッキングデバイスの装着を要求してもよい。
- 21.7 競技者は、別の連盟のチームウェアを着用することはできない。

## 22. スタート

- 22.1 個人競技では、スタートは、通常、インターバルスタートである。リレー競技では、スタートは、通常、マススタートである。
- 22.2 インターバルスタート、同時スタート、またはチェイシングスタートの場合、スタートは、2名以上の競技者が並んでスタートできるように準備されなければならない。最初の100～200メートルは、少なくとも幅3メートルに準備されなければならない。マススタートの場合、「スキーオリエンテーリングマススタートイベントのガイドライン」に従うものとする。
- WSOC  
WCup  
JWSOC
- 22.3 すべての競技者は、スタートエリアで邪魔されずに準備とウォーミングアップを行うために、少なくとも30分の時間が与えられるものとする。ウォーミングアップエリアに入ることができるのは、まだスタートしていない競技者とチーム役員のみとする。
- 22.4 スタートは、計時を開始する前にウォーミングアップエリアの一角からプレスタートする方式で行ってもよい。プレスタートがある場合、チーム役員と競技者に集合時刻を示す時計が表示されるものとし、競技者の名前が呼ばれるか、表示されるものとする。
- 22.5 スタート地点には、競技者に競技時刻を示す時計が表示されるものとする。プレスタートがない場合は、競技者の名前が呼ばれるか、表示されるものとする。
- 22.6 スタートは、後の競技者や他の人が地図、コース、ルート選択、または最初のコントロールの方向を見ることができるよう設営されるものとする。必要な場合には、計時が開始されてからオリエンテーリングが開始する地点までの誘導があるものとする。
- 22.7 競技者は、正しい地図を取る責任がある。競技者のスタート番号または氏名またはコースは、競技者がスタートする前に競技者に見えるように、地図に、または地図の近くに示されるものとする。
- 22.8 オリエンテーリングが開始する地点は、地図にスタートの三角形で示され、トレインにはマーキングデバイスのないコントロールフラグによって印されるものとする。
- 22.9 インターバルスタートの場合、および同時スタートの場合、競技者は、すべてのディスタンスについて、スタートの15秒前に地図を受け取るものとする。マススタートの場合、競技者は、スタートの15秒前に地図を受け取るものとする。チェイシングスタートの場合、競技者は、計時開始後に自分で地図を取るものとする。
- 22.10 マススタートまたはチェイシングスタートの競技では、カメラによってスタートを記録するものとする。スタートが早すぎた競技者、または地図を見るのが早すぎた競技者には、2分間のタイムペナルティが与えられるものとする。
- 22.11 自身の過失でスタート時刻に遅れた競技者は、スタートが許されるものとする。主催者は、他の競技者への影響を考慮して、スタートできる時刻を決定する。彼らは正規のスタート時刻にスタートしたものとして計時されるものとする。
- 22.12 主催者の過失でスタート時刻に遅れた競技者には、他の競技者への影響を考慮して、新しいスタート時刻が与えられるものとする。
- 22.13 各リレーチームのメンバー間のチェンジオーバーは、タッチによって行われる。チェンジオーバー地点は、次の走者が地図を受け取れるように設営されなければならない。

- 22.1 正しく、迅速なリレーのチェンジオーバーは、主催者がチームメンバーの到着をあらかじめ通知するように手配している場合でも、競技者の責任である。
- 22.1 IOF イベントアドバイザーの承認が得られた場合、主催者は、チェンジオーバーしていないリレーチームについて、後のレッグのマスタートを手配してもよい。
- 22.1 リレーチームが失格を受け入れた場合、そのチームの残りのメンバーのスタートは許されないものとする。
- WSOC  
WCup  
JWSOC 22.1 チェンジオーバーエリアでは、次走者には、チームメンバーの前の走者の到着があらかじめ通知されるものとする。

- WSOC  
WCup  
JWSOC 22.1 主催者は、まだスタートしていない競技者がコースに関する情報を得られないように、隔離ゾーンを設けることができる。主催者は、競技者とチーム役員が隔離ゾーンにいなければならない時間を定める。主催者は、隔離ゾーンで待つ人のために、適切な設備（トイレ、リフレッシュメント、雨除け、ウォーミングアップエリア、滑走テストトラックなど）を提供するものとする。競技者またはチーム役員が締切時間後に隔離ゾーンに入ろうとした場合、入場を拒否されることがある。主催者は、隔離ゾーン内での通信機器の使用を禁止してもよい。
- WSOC  
WCup  
JWSOC 22.1 電子スタートゲートシステムが使用される場合、競技者はスタート信号の5秒前から5秒後までの間の任意のタイミングでスタートできる。競技者が5秒を過ぎてからスタートした場合、スタートリスト時刻がスタート時刻とみなされる。5秒より前にスタートし、再スタートしなかった競技者は失格とされる。

### 23. フィニッシュおよび計時

- 23.1 競技者の競技は、フィニッシュラインを越えたときに終了する。
- 23.2 最後のコントロールからフィニッシュまでのルートは、テープまたはロープによって仕切られるものとする。フィニッシュの前、およびリレーの引き継ぎゾーンの前の最後の200mのコースは、可能な限り直線で、少なくとも幅6m、可能な場合は9mであるべきである。最後の100~150mがフィニッシュゾーンとなる。このゾーンの始めは、カラーラインによって明確に印されなければならない。このゾーンは、少なくとも2レーン（それぞれ幅3m）に分けられていなければならない。このゾーンは、明確に見やすく、ただし、滑走の邪魔にならないように印されていないなければならない。競技者がフィニッシュゾーンに入ったら、別の競技者を追い越す場合を除き、レーンから出てはならない。
- 23.3 フィニッシュラインは、少なくとも幅6m（可能な場合は9m）とし、フィニッシュレーンの方向に対して直角とする。フィニッシュラインの正確な位置は、近づいてくる競技者にとって明確であるものとする。
- 23.4 競技者は、フィニッシュラインを越えたときに、コントロールカードと競技地図を提出するものとする。
- 23.5 フィニッシュタイムは、競技者の前の足がフィニッシュラインを越えた時点で計測されるものとする。タイムは、秒未満を切り捨てるものとする。タイムは、時間・分・秒で、または分と秒のみで表されるものとする。スプリントレースでは、適切な計時システムが使用される場合、1/10秒単位を使用できる（IOF IT 委員会ペーパー「公平な計時を確保する方法」を参照）。
- 23.6 計時システムは、同じクラスの競技者のタイムを互いに相対的に0.5秒以上の精度で計測するものとする。
- WMSOC 23.7 フィニッシュラインのパンチングを計時システムとして使用してもよい。

WRE

23.8 フィニッシュタイミングには光ビームが使用されるべきである。光ビームでは、ビームが遮られた時点でタイムが計測される。光または写真バリアの計測ポイントは、積雪表面から 25cm の高さでなければならない。

WSOC  
WCup

23.9 正副 2 つの独立した計時システムが、競技全体を通じて連続的に使用されるものとする。

23.1 マススタートまたはチェイシングスタートの競技では、フィニッシュ審判が最終順位を判定するものとし、裁定委員がフィニッシュラインに立ち会うものとする。

WSOC  
WCup

23.1 マススタートまたはチェイシングスタートの競技では、カメラによってフィニッシュを記録するものとする。

23.1 IOF イベントアドバイザーの承認が得られた場合、主催者は各クラスの最長滑走時間を設定できる。

23.1 フィニッシュには医療設備と医療従事者が配置されるものとし、医療従事者は森林へも出動できる装備を整えているものとする。

WSOC

23.1 最長滑走時間は、以下のとおりとする。  
4

- ・ スプリントは、女子・男子とも 90 分
- ・ ミドルおよびロングディスタンスは、女子・男子とも 3 時間
- ・ リレーは、女子・男子とも 5 時間
- ・ 混合スプリントリレーは、3 時間

## 24. 結果

24.1 競技中、暫定的な結果が、フィニッシュエリアまたは集合エリアで発表され表示されるものとする。

WSOC  
WCup  
JWSOC

24.2 競技中、暫定的な結果がインターネットで入手可能にされるものとする。

24.3 公式結果は、最後にスタートした競技者の可能なフィニッシュ時刻後 4 時間以内に公表されるものとする。公式結果は、競技当日のうちに各チームマネージャーと公認のメディア代表者に配布されるものとする。

24.4 予選・決勝レース競技の決勝が予選レースと同じ日に行われる場合、予選レースの結果は、最後にスタートした競技者の可能なフィニッシュ時刻後 30 分以内に公表されるものとする。

24.5 公式結果には、参加した競技者全員が含まれるものとする。リレーでは、結果には、競技者の氏名（滑走順）と、レッグのタイム、および滑走したコースの組み合わせが含まれるものとする。

24.6 インターバルスタートが使用された場合、2 名以上の競技者が同じタイムであった場合、結果リストでは同順位とする。タイに続く順位は空位のままとする。

24.7 マススタートまたはチェイシングスタートが使用された場合、順位は競技者がフィニッシュした順序によって決まる。リレーでは、最後のリレーレッグを滑走したチームメンバーがフィニッシュした順序によって決まる。

24.8 後半のレッグがマススタートのリレーでは、チームメンバーのそれぞれのタイムの合計によって、マススタート部分のチーム順位が決まるものとする。後半レッグのマススタートに参加したチームは、通常通りにチェンジオーバーしてフィニッシュした全チームより下の順位になる。

24.9 最長時間を超えた競技者またはチームは、順位を付けられないものとする。

WSOC WCup JWSOC	24.1 0	公認された者全員（競技者、チーム役員、メディア代表者など）に、スタートリスト、公式結果リスト、および競技地図が与えられるものとする。
WCup	24.1 1	スキーオリエンテーリングワールドカップガイドラインに従って、得点が与えられるものとする。
WCup JWSOC	24.1 2	不完全なチームおよび複数の連盟からの競技者で構成されるチームの結果は、リレー競技の順位決定では考慮されず、公式結果リストに記載されないものとする。
WCup	24.1 3	主催者は、フィニッシュエリアで、少なくとも上位 20 名の競技者とすべての連盟について、新旧 2 つの合計スコアを表示するものとする。
WCup	24.1 4	IOF 事務局は、すべてのグループ大会後に公式合計スコアリストを作成し、参加したすべての連盟とすべての主催者に送付するものとする。
JWSOC	24.1 5	リレークラスの 2 チームが 1 つの連盟の代表である場合、上位の結果を出したチームのみが順位決定の際に考慮される。
JWSOC	24.1 6	両方のクラスについて、3 つすべての個人競技での各連盟の最上位 3 名の競技者の順位と、入賞したリレーチームの公式順位を 3 倍を加えることによって、連盟ごとのチームスコアが計算される（団体競技で連盟の順位を付けるために）。1 つの連盟について、個人競技でフィニッシュした競技者が 3 名未満の場合、フィニッシュしなかった競技者は最後にフィニッシュした競技者より 1 つ下の順位として扱われる。リレー競技で順位が付かなかった連盟は、最下位のチームの 1 つ下の順位として扱われる。次に、男子と女子のチームスコアを加えることによって、各連盟の総合チームスコアが計算される。最も少ないスコアの連盟が勝者となる。
WMSOC	24.1 7	競技者には、結果に従って得点が割り当てられる。得点の割り当ては、特別規則によって定められる。競技結果は、決勝レースの結果と、最初の 2 つのレースの上位結果に基づく。
WSOC WCup JWSOC WRE	24.1 8	結果は、レース当日にインターネットで公表され、IOF に電子的に提出されるものとする。
WMSOC	24.1 9	結果は、大会の翌日までにインターネットで公表されるものとする。
WRE	24.2 0	各シーズンのワールドランキング得点計算方法は、シーズン前の 6 月末までに IOF 理事会によって決定される。

## 25. 表彰

	25.1	主催者は、権威ある表彰式を手配するものとする。
	25.2	男女の表彰は同等であるものとする。
	25.3	2 名以上の競技者が同じ順位の場合も、それぞれ適切なメダルおよび/または賞状を授与されるものとする。
WSOC	25.4	世界チャンピオンのタイトルは、以下の 9 種目で与えられるものとする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女子スプリント</li> <li>・ 女子ミドルディスタン</li> <li>ス</li> <li>・ 女子ロングディスタン</li> <li>ス</li> <li>・ 女子リレー</li> <li>・ 混合スプリントリレー</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 男子スプリント</li> <li>・ 女子ミドルディスタン</li> <li>ス</li> <li>・ 男子ロングディスタン</li> <li>ス</li> <li>・ 男子リレー</li> </ul>
JWSOC	25.5	ジュニア世界チャンピオンのタイトルは、以下の 8 種目で与えられるものとする。

- ・ 女子スプリント
- ・ 女子ミドルディスタン
- ス
- ・ 女子ロングディスタン
- ス
- ・ 女子リレー
- ・ 男子スプリント
- ・ 女子ミドルディスタン
- ス
- ・ 男子ロングディスタン
- ス
- ・ 男子リレー

WSOC  
JWSOC

- 25.6 以下の賞は、すべての競技で与えられるものとする。
- ・ 1位 金メダル（楯）と賞状
  - ・ 2位 銀メダル（楯）と賞状
  - ・ 3位 銅メダルと賞状
  - ・ 4位～6位 賞状

メダルと賞状は、IOFによって供給されるものとする。

WSOC

- 25.7 表彰式は、主催連盟と IOF の代表者によって執り行われるものとする。

WSOC  
JWSOC

- 25.8 リレーでは、チームの各メンバーが適切なメダルおよび/または賞状を受け取るものとする。

WSOC  
JWSOC

- 25.9 表彰式の際、上位 3 名の競技者またはチームの国旗が掲揚され、優勝者の国歌が演奏されるものとする。

WCup

- 25.1 各個人競技では、1 クラスにつき上位 3 名の競技者が、各リレー競技では上位 3 チームが、主催者によって与えられる賞を受け取るものとする。

WCup

- 25.1 最後の大会の後、総合個人ワールドカップスコアリストの両方のクラスの優勝者が、IOF によって与えられるトロフィーを受け取る。上位 3 名の競技者は、IOF によって与えられるメダルを受け取る。上位 6 名の競技者は、IOF によって与えられる賞状を受け取る。国別ワールドカップの優勝連盟は、IOF によって与えられるトロフィーを受け取る。

JWSOC

- 25.1 総合団体競技の優勝連盟は（規則 24.16 に従って）、IOF によって与えられる賞を受け取る。

WMSOC

- 25.1 上位 3 名の競技者は、IOF によって与えられるメダルを受け取る。

## 26. フェアプレイ

- 26.1 スキーオリエンテーリング大会に参加するすべての人は、公平で正直にふるまうものとする。スポーツマンらしい態度と友愛の精神を持つものとする。競技者は、他の競技者、役員、ジャーナリスト、観客、および競技エリアの住民に敬意を払うものとする。競技者は、テレインでは可能な限り静かにしているものとする。
- 26.2 事故の場合を除き、競技中に他の競技者に支援を求めたり、他の競技者に支援を与えたりすることは禁じられている。負傷した競技者を助けるのは、すべての競技者の義務である。
- 26.3 ドーピングは禁じられている。すべての IOF 大会に IOF アンチドーピング規則が適用され、IOF 理事会はドーピング管理手順の実施を要求することができる。
- 26.4 主催者は、競技の開催地を事前に公表すべきである。開催地が公表されていない場合、すべての役員は競技エリアとテレインについて秘密を厳守するものとする。いかなる場合でも、コースに関する秘密が厳守されなければならない。
- 26.5 主催者によって明示的に許可されない限り、競技テレインの調査または競技テレインでの練習を試みることは禁じられている。競技の前または競技中に、主催者によって与えられた以上に、コースに関する情報を得る試みは禁じられている。

- 26.6 主催者は、他の競技者よりかなり有利な立場にあると思われる競技者を競技に参加させないものとする。そのような場合、IOF イベントアドバイザーとの協議によって決定されるものとする。（付録8を参照）
- 26.7 チーム役員、競技者、メディア代表者、および観客は、指定されたエリアにとどまるものとする。
- 26.8 コントロール役員は、競技者を邪魔したり引き止めたりせず、いかなる情報も与えないものとする。静寂を保つものとし、コントロールに近づく競技者を助けられないものとする。このことは、メディア代表者など、トレイン内の他のすべての人にも当てはまる。
- 26.9 フィニッシュラインを越えた競技者は、主催者の許可なく、競技トレインに再進入することはできない。棄権した競技者は、この旨をフィニッシュでただちに申告し、地図とコントロールカードを提出するものとする。棄権した競技者は、いかなる方法でも競技に影響を与えたり、他の競技者を助けたりしないものとする。
- 26.1 規則に違反した競技者、または規則の違反によって利益を得た競技者は、失格とされることがある。
- 26.1 競技者以外で規則に違反した者は、懲戒処分を受けなければならない。
- 26.1 競技者、役員、または観客にとって危険なレースになる状況が発生したことが明らかになった時点で、主催者はレースを中止して、延期またはキャンセルしなければならない。
- 26.1 レースが著しく不公平になる状況が発生した場合、主催者はレースを無効にしなければならない。
- 26.1 大会の競技者、チーム役員、および大会役員がオリエンテーリング大会に関する賭けに参加することは禁じられている。大会に関する賭けを支援または促進することも禁じられている。さらに、賭けに関する腐敗行為に参加してはならない。そのような行為としては、結果の改ざん、結果の何らかの面の操作、利益のための不作為、収賄または贈賄、内部情報の漏えいなどが含まれる。

## 27. 申し立て

- 27.1 これらの規則または主催者の指示の侵害について、申し立てを行うことができる。
- 27.2 申し立ては、チーム役員または競技者のみが行うことができる。
- 27.3 申し立ては、可能な限り速やかに、書面で主催者に対して行われるものとする。申し立ては、主催者によって判決が下される。判決結果は、ただちに申立人に通知されるものとする。
- 27.4 申し立ては無料である。
- 27.5 主催者は、申し立ての時間制限を設けることができる。この時間制限後に受領された申し立ては、例外的な事情があった場合のみ考慮され、そのような事情は、申し立ての中で説明されなければならない。

## 28. 不服申し立て

- 28.1 申し立てに関する主催者の決定に対して、不服申し立てを行うことができる。
- 28.2 不服申し立ては、チーム役員または競技者のみが行うことができる。
- 28.3 不服申し立ては、主催者が申し立てに関する決定を発表してから 1 時間以内に書面で裁定委員に対して行われるものとする。

28.4 不服申し立ては無料である。

## 29. 裁定委員会

- 29.1 不服申し立てを裁定する裁定委員会が任命されるものとする。
- 29.2 IOF 理事会は、裁定委員会を任命しなければならない大会を決定する。IOF が裁定委員会を任命していない場合、主催者の連盟が裁定委員会を任命するものとする。
- 29.3 裁定委員会は、規則 29.10～29.14 に従って、異なる連盟からの 3 名または 5 名の投票権を持つメンバーで構成されるものとする。IOF イベントアドバイザーは、裁定委員会の進行役を務めるが、投票権は持たないものとする。
- 29.4 主催者の代表は裁定委員会に出席する権利を持つが、投票権はない。
- 29.5 主催者は、裁定委員会の決定に従うものとする。たとえば、主催者が失格とした競技者を復活させる、主催者が承認した競技者を失格とする、主催者が承認したクラスの結果を無効とする、主催者が無効と宣言した結果を承認する、などである。
- 29.6 裁定委員会は、メンバー全員が出席している場合のみ、裁定を下すことができる。緊急時、裁定委員会メンバーの過半数が決定に合意した場合、仮決定を下すことができる。
- 29.7 裁定委員会のメンバーが公平な決定を下すことができないことを宣言した場合、または裁定委員会のメンバーが任務を遂行できない場合、IOF イベントアドバイザーは、代行者を指名するものとする。
- 29.8 不服申し立ての裁定の結果として、裁定委員会は、主催者への指示に加えて、重大な規則違反の場合、IOF 理事会が将来の一部または全部の IOF 大会から特定の人物を除外するように勧告できる。
- 29.9 裁定委員会の決定は最終的なものである。

WSOC 29.1 裁定委員会は、IOF 理事会によって任命される。異なる連盟からの 5 名の投票権を持つメンバーで構成されるものとする。

JWSOC 29.1 裁定委員会は、IOF 理事会によって任命される。異なる連盟からの 3 名の投票権を持つメンバーで構成されるものとする。

WSOC 29.1 裁定委員会は、男性と女性の両方で構成されるものとする。裁定委員は、JWSOC 2 主催連盟の出身ではないものとする。

WCup 29.1 裁定委員会は、異なる連盟からの 3 名の投票権を持つメンバーで構成されるものとする。2 名の裁定委員は、IOF 理事会によって任命される。1 名の WMSOC 3 裁定委員は、主催者の連盟によって任命される。

WRE 29.1 裁定委員会は、3 名の投票権を持つメンバーで構成されるものとし、可能な場合、異なる連盟から選出される。

## 30. アピール

- 30.1 アピールは、これらの規則の侵害に対して、裁定委員会がまだ設置されていない場合、または大会が終了して、裁定委員会が解散していた場合に行うことができる。裁定委員会の決定に対するアピールを行うことはできない。
- 30.2 アピールは、連盟のみが行うことができる。
- 30.3 アピールは、可能な限り速やかに、書面で IOF イベントアドバイザーの任命機関に行われるものとする。
- 30.4 アピールは無料である。

- 30.5 アピールに関する決定は最終決定である。
- 30.6 IOF 理事会がアピールを処理するものとする。

### 31. 大会管理

- 31.1 これらの規則によって拘束されるすべての大会は、IOF イベントアドバイザーによって管理されるものとする。IOF イベントアドバイザーは、主催者の決定後 3 か月以内に任命されるものとする。
- 31.2 IOF 理事会は、IOF 理事会が IOF イベントアドバイザーを任命する大会を決定するものとする。
- 31.3 IOF イベントアドバイザーが IOF によって任命された場合、IOF イベントアドバイザーは主催者に対する IOF の正式代表であり、IOF 理事会に従属し、IOF 事務局との連絡窓口になる。
- 31.4 主催者の連盟は、常に、独立の国内コントローラーを任命するものとする。このコントローラーは、IOF によって任命された IOF イベントアドバイザーを補佐するものとする。IOF が当該大会の IOF イベントアドバイザーを任命しなかった場合、連盟によって任命されたコントローラーが IOF イベントアドバイザーになる。連盟によって任命されるコントローラーは、同じ連盟の出身者である必要はない。
- 31.5 すべての IOF イベントアドバイザーは、IOF イベントアドバイザーのライセンスを保持するものとする。IOF イベントアドバイザーまたは IOF イベントアドバイザーのアシスタントは、参加チームに対していかなる責任も負わない。
- 31.6 IOF イベントアドバイザーは、規則が順守され、間違いが排除され、公平性が最優先されることを保証するものとする。IOF イベントアドバイザーは、大会の要件を満たすために必要とみなした場合には、調整の実施を求める権限を持つ。
- 31.7 IOF イベントアドバイザーは、主催者と緊密に協力するものとし、あらゆる関連情報が与えられるものとする。ブリテンなど、連盟に送付されるすべての公式情報は、IOF イベントアドバイザーによって承認されるものとする。
- 31.8 IOF イベントアドバイザーの権限の下に、少なくとも以下の作業が実施されるものとする。
- 予備のエリアも含め、大会の開催地とトレインを承認する。
  - 大会組織を調査し、提案された宿泊施設、食事、輸送、プログラム、予算、およびトレーニング機会の適切性を評価する。
  - 式典の計画を評価する。
  - スタート、フィニッシュ、およびチェンジオーバーエリアの組織とレイアウトを承認する。
  - 計時および結果計算システムの信頼性と正確性を評価する。
  - 地図が IOF 標準に準拠していることを確認する。
  - コースの難易度、コントロールの位置と器具、偶然の要素、および地図の正しさを評価した後、コースを承認する。
  - コースの分割方法とコースの組み合わせを確認する。
  - メディアのための手配と設備を評価する。
  - ドーピングテストのための手配と設備を評価する。
  - 公式結果を承認する。
- 31.9 IOF イベントアドバイザーは、必要とみなした回数だけ、管理のための訪問を行うものとする。訪問は、任命機関と主催者との合意の上で計画されるものとする。各訪問後ただちに、簡潔な報告書を IOF イベントアドバイザー任命機関に送付し、コピーを主催者に送付するものとする。
- 31.1 IOF イベントアドバイザー任命機関は、特に地図作製、コース、資金調

- 0 達、後援、およびメディアの分野で IOF イベントアドバイザーを補佐する 1 名以上のアシスタントを任命できる。
- 31.1 IOF イベントアドバイザー任命機関は、IOF イベントアドバイザーの任命を取り消す権限を持つ。
- WSOC 31.1 IOF イベントアドバイザーは、少なくとも 3 回の訪問を行うものとする。1 回は初期段階で、1 回は選手権の 1 年前に、1 回は選手権の 3~4 か月前である。

### 32. 大会報告書

- 32.1 大会後 3 週間以内に、主催者は短い報告書を完全な結果リストとともに IOF イベントアドバイザーに提出するものとする。
- 32.2 大会後 4 週間以内に、IOF イベントアドバイザーは報告書を IOF イベントアドバイザー任命機関に送付するものとする。報告書には、大会の重要な特徴と申し立てまたは不服申し立ての詳細が含まれるべきである。
- WSOC  
WCup  
JWSOC 32.3 主催者は、短い報告書、コースの詳細が記載された地図 2 組、および完全な結果リストを IOF 事務局に送付するものとする。
- WMSOC 32.4 大会後 3 週間以内に、主催者は選択したいくつかの地図（コースの詳細が記載されたすべての地図を含む）と完全な結果リストを IOF 事務局に送付するものとする。
- WSOC 32.5 各ブリテンのコピー 1 部、スタートリストを含む最終プログラム、組織計画、および最終決算報告書が、大会後 6 か月以内に、公式記録のために IOF 事務局に送付されるものとする。

### 33. 広告および後援

- 33.1 たばこおよびアルコール度の強い酒の広告は許可されない。
- 33.2 公式の式典でチームメンバーが着用するトラックスーツまたはその他の衣類に付けられる広告は、300cm<sup>2</sup> を超えないものとする。スタート番号ゼッケン以外の、競技者の競技用衣類または器具に付けられる広告の数には制限はない。

### 34. メディアサービス

- 34.1 主催者は、メディア代表者に魅力的な作業条件と、大会を観察し報道するための好機を提供するものとする。
- 34.2 少なくとも、主催者は、メディア代表者が以下のものを利用できるようにするものとする。
- ・ 動画を送信できる十分な帯域幅を備えた高速インターネットアクセス
  - ・ 長時間利用できるメディアセンター
  - ・ 中級レベルのホテル宿泊施設。料金は利用者が負担する。
  - ・ 競技前日に、スタートリスト、プログラム小冊子、およびその他の情報
  - ・ モデルイベントに参加する機会
  - ・ フィニッシュエリアに、耐候性のある静かな作業スペース
  - ・ 競技直後に、結果リストとコースの記載された地図
- 34.3 主催者は、大会の公平性を損なわない限り、メディアの報道を最大限にするためのあらゆる努力を払うものとする。
- 34.4 主催者は、メディア関係者のために、競技エリアへのアクセスを容易にしなければならない。主催者は、輸送手段を提供しなければならない場合が

ある。

### 35. 寒冷気候での安全性

- 35.1 主催者と IOF イベントアドバイザーが寒冷気候での安全性について考慮すべき 3 つの要素がある。すなわち、温度、露出時間、防寒着およびその他の防具である。寒冷気候に関する決定を下すときには、これらの要素を、「風の冷却効果」など、他の関連情報とともに考慮しなければならない。
- 35.2 コースの特定地点の温度レベルがマイナス 15°C からマイナス 20°C の間にある場合、寒冷気候に対する保護についての推奨事項が競技者と競技役員に与えられなければならない。推奨事項が順守され、競技者の健康と安全が守られるように、適切なコントロールが確立されなければならない。
- 35.3 コースの大部分の温度がマイナス 20°C 以下の場合、競技は延期またはキャンセルされるものとする。そのような決定は、主催者と IOF イベントアドバイザーが共同で下さなければならない。

## 付録 1：一般的な競技クラス

### 1. 年齢別クラス

- 1.1 競技者は、性別と年齢に従って、複数のクラスに分けられる。女子は、男子のクラスに出場してもよい。
- 1.2 20 歳以下の競技者は、特定の年齢に達する暦年の年末まで、そのクラスに属する。21 歳以上のクラスで競技する権利がある。
- 1.3 21 歳以上の競技者は、特定の年齢に達する暦年の年頭から、そのクラスに属する。21 歳以下のクラスで競技する権利がある。
- 1.4 主要な競技クラスは、女子と男子のそれぞれについて W21 と M21 と呼ばれる。
- 1.5 21 歳未満の競技者については、W20 と M20、W18 と M18 など、2 歳間隔のクラスが使用される。より年長の競技者については、W35 と M35、W40 と M40 など、5 歳間隔のクラスが使用される。
- 1.6 コースの難易度および/または長さに応じて、各クラスを複数のサブクラスに分けてもよい。難易度とコースの長さに応じたサブクラスは、E（エリート、該当する場合）、A、B、C、および N（初心者）と呼ばれる。コースの長さのみに応じたサブクラスは、S（ショート）と L（ロング）と呼ばれる。
- 1.7 エリート（E）クラスは、年齢別クラス 18、20、および 21 についてのみ提供することができる。このクラスは、連盟によってエリート競技者として分類された競技者、または連盟のランキング方式での順位に基づいて選出された競技者に制限される。

### 2. 平行クラス

- 2.1 クラスへのエントリーが多すぎる場合、平行クラスに分割してもよい。エリートクラスの分割は、競技者の過去の成績に基づくべきである。エリートクラス以外のクラスの分割は、同じクラブ、地区、または連盟からの競技者が平行クラス間に等分に分散されるように行われるべきである。

## 付録2：チームオフィシャルミーティングの議題

ブリテン4には可能な限り多くの情報を記載して、チームオフィシャルミーティングにおいて口頭で伝達しなければならない情報を最小限にすべきである。

### 1. 開会

### 2. 点呼

- 1つの連盟につき最大2名の代表者

### 3. 役員のプレゼンテーション

- 主催者の役員
- 裁定委員

### 4. タイムスケジュール

- プログラムに従っていない場合

### 5. 競技センターへの輸送

### 6. 競技センター (OHT図)

- 駐車場
- 更衣室とシャワー
- スキーのワックスと温度情報
- 滑走テスト
- ウォーミングアップトラック
- プレスタート
- 立入禁止エリア

### 7. ワックス設備

- 部屋
- 電力
- スキープロファイル
- テーブル

### 8. テレインでの器具管理

- 共通または個別管理、男女
- コース全長のパーセンテージで表される位置
- チームバックの配送：場所、時

### 9. コース

- 長さ（直線距離と最短と思われるルート選択）
- コントロールの数
- 中間タイム（コース全長のキロ地点）
- 合計登坂距離
- 推定ウィニングタイム
- 海拔
- リフレッシュメントコントロール（コース全長のキロ地点）
- フォーキング？

## 10. トラック

- 異なるトラックの仕様
- 準備の種類
- 1km<sup>2</sup>あたりの交差回数
- 最近の準備
- トラックの品質、現状

## 11. 地図の種類

- 縮尺と等高線の間隔
- サイズ、機能縮小版
- 特殊記号
- 返却のタイミング

## 12. コントロールカード

- 使用するタイプ

## 13. スタート手順 (OHT図)

- スタート方法
- スタートの合図
- 地図をいつ取るか
- スタート間隔の距離時間

## 14. ループおよび地図変更手順 (OHT図)

- 地図のマーキング
- 使用済みの地図の提出
- 新しい地図の取得
- リフレッシュメントと器具サービス

## 15. フィニッシュ手順

## 16. 天気予報

- 最近の天気
- 競技時刻の予報
- 風
- 雪
- 温度
- 日照

## 17. その他の事項

18. ブリテン4に記載の情報に変更があった場合、またはチームオフィシャルミーティングでの決定があった場合、これらの変更は書面ですべてのチームに与えられるべきである。

## 19. 閉会

## 付録 3 : 公認パンチシステム

[競技規則 20.1 では、「IOF 認可の電子パンチングシステムのみを使用できる」と定められている。]

- 正式認可されたパンチングシステム（2013 年 12 月）は、以下のとおりである。
  - Emit 電子パンチングおよび計時システム
  - SportIdent システム
  - Emit タッチフリーパンチングシステム
- 現在認可されているバージョンの詳細と、仮認可されているシステムは、IOF の Web ページに記載されている。
- その他のコントロールパンチングシステムを使用するには、事前に IOF 規則委員会の承認を得る必要がある。
- Emit システムに関しては、バックアップマーキングのために競技者の電子コントロールカードに貼付されるラベルは、競技中に遭遇する可能性のある条件（水分の浸入を含む）に耐えるものでなければならない。電子パンチが欠落した場合に使用できるようにバックアップカードにマーキングするのは、競技者の責任である。
- SportIdent システムに関しては、各コントロールにバックアップニードルパンチがなければならない。フィードバック信号を受け取るまで e カードを動かさないことによって、電子パンチが e カードに施されるようにするのは、競技者の責任である。フィードバック信号が受信されなかった場合のみ、競技者はバックアップパンチを使用しなければならない。
- コントロールカードには、すべてのコントロールを通過したことが明確に示されていなければならない。コントロールパンチが欠落しているか、識別不能な競技者は、パンチの欠落または識別不能が競技者の責任ではないことが明確に立証されない限り、失格となるものとする。この例外的な状況では、コントロール役員またはカメラまたはコントロール機器の表示値など、競技者がコントロールを通過したことを証明する他の証拠を使用してもよい。それ以外のどのような状況でも、そのような証拠は認められず、競技者を失格としなければならない。SportIdent の場合、この規則は以下のことを意味する。
  - 1 台の機器が機能していない場合、競技者は用意されたバックアップ機器を使用しなければならない、パンチが記録されていなければ失格となる。
  - 競技者のパンチが速すぎてフィードバック信号を受け取れなかった場合、カードにはパンチの記録がないので、（コントロール危機に競技者のカード番号が記録されていた場合でも）競技者を失格としなければならない。

## 付録4：スキーオリエンテーリングマススタート大会のガイドライン

ミドルおよびロングディスタンス大会では、3つまたは4つのループで構成され、フォーキングを伴うマススタートを使用できる。女子クラスでは、2つのループの使用も可能である。

各ループには、少なくとも1つの、望ましくは複数の共通コントロールポイントがあるものとし、それらのコントロール間のループ部分は、独立分岐しているべきである。

レースの最後には、分岐していない部分があるべきであり、コースの全長の1/5以下であるべきである。これは、第3ループの最後の部分またはより短い第4ループを共通にすることによって調整できる。ただし、第3ループの最初の部分は分岐しているべきである。女子クラスではループは2つだけでもよいが、その場合、少なくとも3つの独立分岐部分を設けて、少なくとも8種類のコースの組み合わせを可能にするものとする。

積雪条件が不良の場合、マススタートフォーキングの最小要件を満たせない場合、競技をインターバルスタートに変更すべきである。

中間計時を改善し、観客が楽しめるようにするために、フォーキングの違いによって長さや高さに重大な違いが生じないようにすべきである。コースの組み合わせは、スタート番号にランダムに割り当てられるべきである。IOFの主要大会では、同じ国からのスキーヤーがスタートからフィニッシュまで同じコースにならないものとする。この点を抽選後に確認すべきである。

スタートエリアは幅が広くなければならない。スタート列は、同じスタートグループの競技者が同じ列になるように調整すべきである。少なくとも、最初のコントロールは、狭いトラックを双方向で滑走する状況を避けるように計画されるべきである。さまざまなクラスのスタート時刻と競技エリアは、不必要な渋滞や大人数のグループが共通のトラックに集合するのを避けるように計画する必要がある。

すべてのコントロールは、複数のパンチング器具を備えた幅広いものであるべきである。最初のコントロールと後半の共通コントロールは、パンチング器具の間隔を広く取るべきである。すべてのマススタートレースでは、特に最初と最後の共通部分では、コントロールでの折り返しを可能な限り避けたコース設定にしなければならない。コントロールは、さまざまな方向から高速で接近するように設置されるべきではない。コース設定は、最初のコントロールでの混雑を避けるように計画されるべきである。

すべてのマススタート個人競技およびすべてのリレースタートのスタート手順は、すべてのIOF大会で同一である。競技者はランキングに基づいて列ごとに位置づけられ、ランキングの高い選手/チームが先頭に位置づけられる。マススタート（個人

またはリレー) の場合、主催者は地図の配布方法として2つの方法から選ぶことができる。1つの方法は、スタートの90～45秒前の間に、丸められた地図または折りたたまれた地図を選手の後ろから選手の左手に渡し、スタートの合図と同時に、選手は地図を地図ホルダーに移動することができる。2番目の方法は、選手2名につき1名のスタッフがスタートの15秒前に選手に地図を渡す。スタートの合図と同時に、競技者は滑走を開始できる。

地図の交換時に正しい地図を取るのは、競技者自身の責任である。間違った地図を取った競技者は、失格となるものとする。そのような状況に備えて、主催者は予備の地図とコースの組み合わせリストを用意して、正しいループを競技者にすばやく提供できるようにするものとする。

フィニッシュの少なくとも100m前から、少なくとも2つ、望ましくは3つの個別のフィニッシュレーンを設けるべきである。競技者の片方の足のつま先が、明確に印されたフィニッシュラインを通過した時点で、フィニッシュとみなされる。不明瞭な場合の判定のために、フィニッシュラインをビデオ撮影すべきである(可能な場合)。少なくとも1名の裁定委員がフィニッシュに立ち会うものとする。

観客を楽しませることを重要な目標とする。共通のコントロールはラジオコントロールとして使用されるべきであり、そこから現在の順位がスピーカーに報告されるべきである。

## 付録5：コース設定の原則

### 1. 序文

- 1.1. 目的
- 1.2. これらの原則の適用

### 2. 基本原則

- 2.1. スキーオリエンテーリングの定義
- 2.2. コース設定の狙い
- 2.3. コースプランナーの黄金律

### 3. スキーオリエンテーリングコース

- 3.1. テレイン
- 3.2. スキーオリエンテーリングコースの定義
- 3.3. スタート
- 3.4. コースレッグ
- 3.5. コントロール
- 3.6. フィニッシュ
- 3.7. 地図読解要素
- 3.8. ルート選択
- 3.9. 難易度
- 3.10. 競技の種類
- 3.11. コースプランナーが目指すべきもの

### 4. コースプランナー

#### 1. 序文

##### 1.1. 目的

これらの原則は、競技の公平性を確保し、スキーオリエンテーリングというスポーツの独自の特性を維持するために、スキーオリエンテーリングコースの共通の設定基準を確立することを目的としている。

##### 1.2. これらの原則の適用

すべての国際スキーオリエンテーリング大会のコースは、これらの原則に従って設計されなければならない。

## 2. 基本原則

### 2.1. スキーオリエンテーリングの定義

スキーオリエンテーリングは、競技者が地上に印された多数の地点（コントロール）を、地図とコンパスだけを使用して、可能な限り短時間で通過するスポーツである。ナビゲーションスキルが決定要素となるような方法で、スキーとナビゲーションのスキルが試されるものとする。一部は徒歩で通過してもよく、その場合、競技者は適切なサイズのスキー、スキーポール、およびスキー靴を持ち運ばなければならない。スキーでのオリエンテーリングは、スキーナビゲーションとして特徴づけることができる。

### 2.2. コース設定の狙い

コース設定の狙いは、競技者に期待される能力に合わせて適切に設計されたコースを提供することである。結果は、競技者の技術的・身体能力を反映しなければならない。

### 2.3. コースプランナーの黄金律

コースプランナーは、以下の原則を念頭に置いておかなければならない。

- スキーナビゲーションとしてのスキーオリエンテーリングの特異な特性
- 競技の公平性
- 競技者の楽しみ
- 野生生物と環境の保護
- メディアと観客のニーズ

#### 2.3.1. 特異な特性

すべてのスポーツには、独自の特性がある。スキーオリエンテーリングの特異な特性は、競技トレインで時間と戦いながら最適なルートを発見し、辿ることである。このためには、正確な地図読み、ルート選択の判断、コンパスの取り扱い、ストレス下での集中力、すばやい意思決定、さまざまな値系でのスキー滑走など、スキーオリエンテーリング技能が要求される。

#### 2.3.2. 公平性

公平性は、競技スポーツの基本的な条件である。コースプランニングとコース設定の各段階で最大限の注意を払わない限り、スキーオリエンテーリング競技が運に大きく左右されることになってしまう。コースプランナーは、競技が公平であり、すべての競技者がコースのどの部分でも同じ条件になるように、あらゆる要素を考慮しなければならない。

### 2.3.3. 競技者の楽しみ

競技者が与えられたコースに満足しなければ、スキーオリエンテーリングの人気を高めることはできない。したがって、長さ、物理的・技術的難易度、コントロールの位置などの点で適切なコースになるように、入念なコースプランニングが必要である。この点で、各コースがそのコースに参加する競技者に適していることが特に重要である。

### 2.3.4. 野生生物と環境

環境は繊細である。野生生物の生活が乱され、乱用によって地面と植生が被害を受けることがある。環境には、競技エリアの住民、柵、フェンス、耕作地、建物、その他の建造物も含まれる。

通常、最も繊細なエリアへの干渉を避けて無害に保つ方法を見つけることは可能である。適切な予防策を取り、入念なコース設定が行われれば、繊細な地域でも、永久的な損害を与えずに、大きな大会を開催できることは、経験と調査が示している。

コースプランナーは、特定のトレインへのアクセス路があることと、事前に発見された繊細な地域を確認することが非常に重要である。

### 2.3.5. メディアと観客

コースプランナーは、スキーオリエンテーリングというスポーツの良いパブリックイメージを与える必要性を常に考慮すべきである。コースプランナーは、スポーツの公平性を損なわないようにしながら、観客とメディアが競技の進展をできるだけ詳しく知ることができるように努力すべきである。

メディアが森林の画像を容易に撮影できるように、競技場近くに「フォレスト」コントロールがあるべきである。

観客には、競技場でインターネットへのアクセスが提供されるべきである。

## 3. スキーオリエンテーリングコース

### 3.1. テレイン

テレインは、すべての競技者に公平な競技を提供できるように選定されなければならない。スポーツの特性を維持するには、テレインは滑走可能で、競技者のスキーオリエンテーリング技能を試すのに適しているべきである。

### 3.2. スキーオリエンテーリングコースの定義

スキーオリエンテーリングコースは、スタート、コントロール、およびフィニッシュによって定義される。これらのポイントは、テレインとそれに応じた地図上の正確な位置に置かれ、その間が、競技者が走破しなければならないコースレグである。

### 3.3. スタート

スタートは、以下のような状態であるべきである。

- ウォーミングアップエリアがあること。
- スタートした競技者のルート選択が待機中の競技者に見えないこと。

最初のレッグでオリエンテーリングが開始される地点は、マーキングデバイスのないコントロールフラグによってマークされ、地図上では三角形によって印される。競技者は、スタートの直後からオリエンテーリングの課題に直面すべきである。

### 3.4. コースレッグ

#### 3.4.1. 良いレッグ

コースレッグは、スキーオリエンテーリングコースの最も重要な要素であり、コースの品質の大部分を決める。良いレッグは、面白い地図読みという課題を提供し、代替ルートの可能性を持つ良いトレインへと導く。

同じコース（競技の種類によって異なる）内でさまざまな種類のレッグが提供されるべきであり、そのうちの一部は細かな地図読みに基づき、その他はより容易に滑走できるルート選択を含むべきである。競技者がさまざまな範囲のオリエンテーリング技術と滑走速度を使用しなければならないように、長さや難易度に関して変化があるべきである。競技者が頻繁に方向確認をしなければならないように、コースプランナーは、連続するレッグの全般的な方向にも変化を付けるように努力すべきである。

コースは、均質だが低品質のレッグが多数あるよりも、少数の非常に優れたレッグを、レッグを強化するように設計された短いリンクでつなぐ方が望ましい。

#### 3.4.2. レッグの公平性

競技条件下で競技者が地図から読み取れないような有利・不利なルート選択を含むレッグがあるべきではない。競技者を立入禁止エリアや危険エリアに導くようなレッグは避けなければならない。

### 3.5. コントロール

#### 3.5.1. コントロール位置

すべてのコントロールは、競技地図に示されているスキートラックまたは開けた準備エリアになければならない。地上でのコントロールの正確な位置と地図上に印されたポイントは、議論の余地なく明白でなければならない。競技者は、順序が指定されている場合は与えられた順序で、ただし、自分自身のルート選択に従ってコントロールを通過しなければならない。このためには、入念なプランニングと確認によって公平を期さなければならない。

地図がコントロール周辺の地形を正確に示していることと、コントロールがトラックに沿って正確に設置されていることが特に重要である。

コントロールは、リフレッシュメントポイントや地図交換も含め、急峻で困難な下り坂に設置されてはならない。前半、後半の共通部分、およびフォーキング方法によって同じコントロールを複数回通過する部分では特に、コース設定で可能な限り、コントロールでの折り返しを避けるべきである。コントロールは、さまざまな方向から高速で接近するように設置されるべきではない。

タッチフリーパンチングシステムでは、選手が通過する際に確実にパンチできる速度に制限がある場合があるため、急峻なスロープにはタッチフリーコントロールを設置すべきではない。

コントロール位置のトラックは、競技者が通過できる十分な幅があるものとする。

### 3.5.2. 競技の機能

コントロールの主な機能は、オリエンテーリングレグの始めと終わりを示すことである。

時には、危険エリアや立入禁止エリアを回避して競技者を誘導するためなど、他の特定の目的を持つコントロールを使用しなければならない場合がある。

コントロールは、器具、リフレッシュメント、メディア、および観客のためのものとしても利用できる。

### 3.5.3. コントロールフラグ

コントロール用の器具は、IOF大会規則に準拠していなければならない。

### 3.5.4. コントロール位置の公平性

コントロールフラグは隠されるべきではない。

コントロール位置は、接近する競技者が離れていく競技者のトラックを妨げないように、十分に配慮して選定する必要がある。

### 3.5.5. コントロールの近接

異なるコースのコントロールが互いに近すぎると、コントロール位置に正しく近づいた競技者を惑わす可能性がある。同じトラック（トラックが互いに交差して重ね刷りされていない）のコントロールは、互いから100m以内に設置されないものとする。さらに、コントロールがトレインおよび地図上で明らかに異なる位置にある場合のみ、コントロールを50m未満に近づけて設置してもよい。

### 3.5.6. コントロール位置説明

スキーオリエンテーリングでは、コントロールの説明は使用されない。すべてのコントロールは競技地図に示されているトラックに適していなければならない。地上でのコントロールの正確な位置と地図上に印されたポイントは、議論の余地なく明白でなければならない。

### 3.6. フィニッシュ

少なくとも、フィニッシュラインへのルート最後の部分は、強制誘導であるべきである。

### 3.7. トラックシステム

トラックシステムは、以下の目標を考慮して計画されるべきである。

- 競技フォーマット
- テレイン、特に高低差
- 異なるスキー技術の使用
- コースプランニングの必要性

トラックの準備は、以下の目標を考慮して実行されるべきである。

- 参加者全員に等しい条件を与えるという公平性
- 安全性
- 特にトラックの通過に関して、地図とテレインの正確な一致

競技トラックを準備し、競技地図にトラックシステムを書き込むときには、点線のトラックに特に注意が払われるべきである。エリートオリエンティアの場合、ルート選択の際、点線かどうかによって、上り坂/下り坂を滑走できるかどうかはわかることが重要である。トラック標準では、通常の条件では点線のトラックを滑走できない必要がある。したがって、点線トラックは最大幅1.2mでなければならない。上り坂または下り坂のセクションで幅が広がってはいならない。安全性またはその他の理由で、そのような拡幅が必要な場合、トラックのその部分は地図上に実線で示されなければならない。トラックの幅が1.2m以上に広げられていて、競技者が坂を登れることが明確に示されなければならない。

### 3.8. 地図読みの要素

良いスキーオリエンテーリングコースでは、競技者はレース全体を通じてナビゲーションへの集中を要求される。地図読みやナビゲーションへの集中が必要とされないセクションは、特に優れたルート選択の結果でない限り、避けるべきである。

### 3.9. ルート選択

ルートに複数の選択肢があると、競技者は地図からトレインを評価して、結論を出さなければならない。ルート選択は、競技者に独自の思考を要求し、それぞれのルートに分散させ、“追従”の可能性が少なくなる。

### 3.10. 難易度

どのようなトレインと地図でも、コースプランナーはさまざまな難易度のコースをプランニングできる。レグの難易度は、レグを線状特徴物にどの程度忠実に従わせるかによって、変化を付けることができる。

競技者は、地図から得られる情報に基づいてコントロールまでのナビゲーションと滑走の難易度を評価し、適切な技術を選択できるべきである。

競技者に期待される技能、経験、および地図を詳細に読み取る能力に注意が払われるべきである。初心者および子供向けのコース設定時には、適切な難易度にすることが特に重要である。

### 3.11. 競技の種類

競技のフォーマットによって、異なるコース特性が必要とされる。フォーマットを標準化して、大会で競技者に求められるものについて競技者に公平な期待を与えるには、コース設定者は以下のガイドラインと原則に従う必要がある。

#### a. エクストラロングディスタンス：

- i. ウィニングタイム：男子は2時間30分～2時間45分、女子は2時間～2時間15分（他のクラスは、ロングディスタンスタイムの175%）。
- ii. 推奨マススタートは、3～6ループ、ループでのフォーキングコントロール数1～3。バタフライループの使用が許可される。
- iii. 大会とコースのハイライトは、(1) ルート選択、(2) 耐久力、および(3) 最も経済的な方法で大会を開催して、フィニッシュまで強さを維持する能力である。
- iv. トラックシステムの密度は低く、コントロール間のレグが非常に長い（5～6km）。

#### b. ロングディスタンス：

- i. ウィニングタイム：男子は1時間35分～1時間40分、女子は1時間15分～1時間30分。

- ii. 2 分間隔の個別スタート、またはフォーキングと異なるループによるマススタート。数回の地図交換とスタート/フィニッシュエリアのパブリックコントロール。
  - iii. 大会とコースのハイライトは、(1) ルート選択、(2) ルート選択によるオリエンテーリングのペース配分（速い滑走）と、頻繁な地図読みが必要な高密度のトラックシステム、(3) 耐久力とスキーオリエンテーリングトラックでの速い滑走である。
  - iv. コントロール間の長いルート選択レッグ（3～4km）と、高密度なトラックシステムエリア（コントロール間の距離 200～400m）での難解な地図読み/オリエンテーリングの混合。
- c. ミドルディスタンス：
- i. ウィニングタイム：男女とも 40～45 分（他のクラス：ロングディスタンスタイムの 50 %）。
  - ii. 2 分間隔の個別スタート、または 3 ループとループあたり 1～3 か所のフォーキングコントロールを伴うマススタート。数回の地図交換とスタート/フィニッシュエリアでのパブリックコントロール。
  - iii. 大会とコースのハイライトは、(1) 地図読み、(2) 高密度トラックシステムでの正確で円滑なナビゲーション、(3) スキーオリエンテーリングトラックでの高速滑走能力、(4) 耐久力である。
  - iv. コースには、コントロール間に短いレッグがあり（1km 未満、平均 350～400m）、非常に高密度のトラックシステムがある。
- d. スプリントディスタンス：
- i. ウィニングタイム：男女とも 10～15 分（他のすべてのクラスも同じ）。
  - ii. 1 分間隔の個別スタート。フォーキングはないが、スタートおよびフィニッシュエリアでパブリックコントロールを使用することが望ましい。
  - iii. 大会とコースのハイライトは、(1) 高密度トラックシステムでの正確で円滑なナビゲーション、(2) 高速な地図読み、(3) スキーオリエンテーリングトラックでの高速滑走、(4) ルート選択である。
  - iv. コースは、より長いルート選択レッグと、非常に高密度なトラックシステム内の短いレッグの均等な混合（50%/50%）である。
- e. リレー：
- i. 3 レッグ - 各レッグのウィニングタイムは男女とも 30～35 分。
  - ii. マススタート。3 つのレッグがあり、2～3 のフォーキングコントロールがあるループ。望ましくは、レッグの中間のスタート/フィニッシュエリアにパブリックコントロール。

- iii. 大会とコースのハイライトは、(1) 地図読み、(2) 高密度トラックシステムでの正確で円滑なナビゲーション、(3) スキーオリエンテーリングトラックでの高速滑走能力、(4) 耐久力である。
  - iv. コースには、コントロール間に短いレッグがあり (1km 未満、平均 350~400m) 、非常に高密度のトラックシステムがある。
  - v. 基本的に少し短いミドルディスタンスレースの特性。
- f. スプリントリレーおよび混合スプリントリレー :
- i. 1 チーム 2 名の競技者。6 レッグ (競技者あたり 3 レッグ) - レッグのウィニングタイムは男女とも 6~8 分。混合スプリントリレー - 1 チームに少なくとも 1 名の女子。特定の男子レッグと女子レッグ。主催者は、女子が滑走するレッグを決定する。
  - ii. マススタート。6 つのレッグがあり、1~2 のフォーキングコントロールがあるループ。望ましくは、レッグの中間のスタート/フィニッシュエリアにパブリックコントロール。
  - iii. 大会とコースのハイライトは、(1) 高密度トラックシステムでの正確で円滑なナビゲーション、(2) 高速な地図読み、(3) スキーオリエンテーリングトラックでの高速滑走、(4) ルート選択である。
  - iv. コースは、より長いルート選択レッグと、非常に高密度なトラックシステム内の短いレッグの均等な混合 (50%/50%) である。
  - v. 基本的に少し短いミドルスプリントレースの特性。

- 3.12. コースプランニングでは、想定される競技の種類具体的な要件を考慮しなければならない。たとえば、スプリントスキーオリエンテーリングのコースプランニングでは、コース全体を通じて詳細な地図読みと全速力での高度な集中力が要求されなければならない。リレーとマススタート大会のコースプランニングでは、両行かつ十分なフォーキング/分割システムを組み込むべきである（付録4：マススタート大会のガイドラインを参照）。コースプランニングでは、観客とメディアに競技の進捗状況がよくわかるように考慮すべきである。
- 3.13. 地図交換をプランニングするときには、数名の競技者が同時に地図を交換できるだけの十分なスペースがなければならない。マススタート（個人およびリレー）では、後続の走者が地図を取る妨げにならないように、最上位のランキングのスキーヤー/チームに次のスタート地点に最も近い地図が割り当てられる。
- 3.14. コースプランナーが目指すべきもの

3.14.1. テレインを知る

コースプランナーは、コントロールまたはレッグの使用を決める前に、テレインを熟知すべきである。また、プランナーは、競技当日には、地図とテレインの状態が、コースをプランニングした時点とは異なる可能性があることを意識すべきである。

3.14.2. 適切な難易度にする

初心者と子供向けのコースは難しくなりがちである。コースプランナーは、エリアを調査するときに、自分のナビゲーション能力や自分の滑走速度だけに基づいて難易度を押し量らないように注意すべきである。

3.14.3. 公平なコントロール位置の使用

プランナーは、できるだけ良いレッグにしようと思うあまり、不適切なコントロール位置を使用してしまうことがある。競技者が良いレッグと素晴らしいレッグの違いに気づくことはあまりないが、コントロール位置やフラグが隠れていたり、あいまいであったりしたために予期せぬロスタイムが生じた場合には、すぐに気付く。

3.14.4. コントロールを十分に離して配置すること

コントロールには識別番号が付いているとしても、コース上のコントロール位置に正しく接近してきた競技者を惑わせるほど接近して配置すべきではない。

3.14.5. 複雑すぎるルート選択や密度が高すぎるトラックシステムを避けること。

プランナーは、誰も選ばないルート選択が見え、難解な課題を設けるために時間を費やすかもしれないが、競技者は“次善”のルートを選択することによって、考える時間を節約するかもしれない。

トラックシステムは、大雪の後でも妥当な時間内に“整備”できるように計画されるべきである。

3.14.6. 悪天候時に肉体的にきつすぎ、長すぎるコース。

コースは、競技者の能力に合わせて設定され、その能力でコースの大部分を滑走できるように設定されるべきである。コースの合計登坂距離は、最短と思われるルート選択の長さの4%を超えるべきではない（最大6%）。

標高を考慮しなければならず、コースの大半が海拔1800メートル未満であるべきである。主催者は、この標高制限からの逸脱を適用できるが、その旨をブリテン1で明確に開示しなければならない。

コースの肉体的難易度は、マスタークラスの競技者の年齢が上がるにつれて減少すべきである。クラスM70以上とW65以上では、滑走が技術的または肉体的にきつくなりすぎないように特に注意しなければならない。

#### 4. コースプランナー

コースプランニングの責任者は、良いコースの品質について、個人的な経験から得た知識を持ち、見極めることができなければならない。また、コースプランニングの理論に精通し、さまざまなクラスとさまざまな種類の競技の特殊な要件を見極めることができなければならない。

コースプランナーは、トレインの状態、地図の品質、雪の状態、参加者と観客の存在など、競技に影響する可能性のあるさまざまな要素を現場で判断できなければならない。

コースプランナーは、スタートからフィニッシュラインまでのコースと競技の進行に責任を持つ。コースプランナーの仕事は、コントローラーによって確認されなければならない。これは、重大な結果をもたらすおそれがあるミスの可能性を減らすために必須である。

## 付録6：環境活動に関する IOF 決議

1996年4月12～14日の会議において、国際オリエンテーリング連盟の理事会は、オリエンテーリングの環境にやさしい性質を維持する重要性を認識して、1995年10月26日のGAISF環境決議に従い、以下の原則を採用した。

- ・ 今後も健全な環境を守る必要性を認識し、この原則をオリエンテーリングの基本的な実施に盛り込む。
- ・ 競技規則と大会開催のベストプラクティスが環境と動植物の保護に関する原則に合致していることを確認する。
- ・ ベストプラクティスを定義できるように、土地所有者、政府機関、および環境保護団体と協力する。
- ・ 環境保護に関する地元の規制に特に注意を払い、ごみを残さないというオリエンテーリングの性質を維持し、汚染防止のための適切な対策を取る。
- ・ オリエンティアと役員教育およびトレーニングに環境活動を含める。
- ・ 世界の環境問題に対する国内連盟の意識を高めて、オリエンテーリングによるカントリーサイドの繊細な使用を守る原則の採用、適用、および普及に努める。
- ・ 国内連盟が各国独自の環境活動ガイドラインを作成することを推奨する。

## 付録7：ライブニッツ協定

2000年8月4日、オーストリアのライブニッツで開催された第20回総会に出席した我々IOFのメンバーは、以下のように宣言する。

「スポーツのイメージを高め、オリエンテーリングをより多くの人々と新しい地域に普及させ、オリエンテーリングをオリンピック競技にすることは、明らかに重要なことである。これを達成するための手段は、以下のとおりである。

- 競技者、役員、メディア、観客、スポンサー、および外部パートナーにとって高品質な魅力的で刺激的なオリエンテーリング大会を開催する。
- IOF大会をTVとインターネットにとって魅力的なものとする。

我々は以下のことを目指さなければならない。

- 人々にとって身近な場所で大会を開催することにより、スポーツの認知度を高める。
- 設備のデザインと品質により多くの関心を払うことによって、より魅力的なイベントセンターにする。
- スタートとフィニッシュの両方をセンターで行うことにより、イベントセンターの雰囲気と興奮を高める。
- 大会が感動的なスポーツ番組を制作する機会となるようにすることによって、テレビやその他のメディアの報道範囲を広げる。
- メディア代表者のニーズにより適切に応えることによって、メディアサービスを向上させる（通信設備、スタート/フィニッシュおよび森林での走者へのアクセス、継続的な中間タイム情報、食事、飲料など）。
- IOF大会とスポンサーおよび外部パートナーとの結びつきを強めることに、より大きな関心を払う。

我々IOFメンバーは、これらの対策が将来のIOF大会のすべての開催者によって考慮されることを期待する。」

## 付録8：主要なIOFスキーオリエンテーリング大会でのトレインの使用に関するガイドライン

1. 提案された競技エリアは、予備エリアも含めて、通常、開催者の任命後ただちに立入禁止にされるものとする。それが不可能な場合には、可能な限り速やかに、トレインへのアクセスに関する取り決めが公表されなければならない。立入禁止エリアに関する情報はブリテンで与えられ、インターネットのIOF Webサイトでも入手可能にされるものとする。
2. エリアは、オリエンテーリング活動についてのみ立入禁止とされる。すなわち、地図を使用しないパーマネントトラックの使用は許される。ただし、レース用の小さなトラックシステムの準備後は、競技エリアは完全に立入禁止とされるものとする。
3. これと平行して、最近のオリエンテーリングおよび/またはスキーオリエンテーリング地図のカラーコピーが、関連のスキーオリエンテーリング連盟のすべてに送付されるものとする。コピーは、IOF事務局にも送付されるものとする（§8.3および8.4を参照）。最近の地図は、インターネットの主催者のWebサイトでも入手可能にされるべきである。
4. 立入禁止エリアが発表された後は、主催者とIOFイベントアドバイザーから特に許可を得ない限り、すべての競技者候補、トレーナー、チームリーダーなどがこれらのエリアに立ち入ることは禁止される。
5. 競技エリアを立入禁止にする目的は、トレインと地図に関して地元の知識を持つ競技者が有利にならないようにするためである。すべての競技者に可能な限り等しい条件を与え、同時に、中心街に近く、交通の便が良いエリア、確立されているスキー場の利用、観客とメディアにやさしい大会など、現代のスキーオリエンテーリング大会の目的に合わせて、努力が払われるものとする。
6. トラックおよびコース設定は、地元の競技者が有利になりすぎないような方法で行われるものとする。
7. この点で、主催者は、主催者とIOFイベントアドバイザーが適切とみなした場合には、大会の1年前に、トレーニング機会/競技トレインの“調査旅行”を開催すべきである（冬季、メイントラックも）。WSOCについて適切とみなされた場合には、トレーニング機会/“調査旅行”は、WSOCの1年前のWCup/Pre-WSOCと組み合わせて手配されるものとする。
8. トラックおよびコース設定と競技の順序は、同じ大会の前の競技に参加した競技者が、参加していない競技者に対して大幅に有利にならないようにされるべきである。

9. 規則/ガイドラインに違反して、すべての競技者に提供される内容を超えて、テレイン、地図の知識、コースなどに関する優位を得ようとする事（無許可のトレーニング、調査など）は禁止されており、大会への出場停止処分とする。
10. 主催者は、上記のガイドラインにかかわらず、他の競技者よりかなり有利な立場にあると思われる競技者を競技に参加させないものとする。そのような場合、IOFイベントアドバイザーとの協議によって決定されるものとする。

## 付録9：ヨーロッパスキーオリエンテーリング選手権

ヨーロッパスキーオリエンテーリング選手権（ESOC）は、スキーオリエンテーリングの M21 および W21 クラスのヨーロッパチャンピオンのタイトルを授与する公式大会である。大会は、ヨーロッパ作業部会（EWG）、IOF、および任命された連盟の権限の下で開催される。大会は、スキーオリエンテーリング世界選手権（WSOC）の IOF 競技規則に従うものとするが、これらの規則に別の定めがある場合を除く。

### 1. ESOC の原則

選手権大会は、以下の原則に従って開催されるものとする。

- ヨーロッパの各連盟の最高のスキーオリエンティアに対して、技術的に最高品質の競技が提供されるものとする。
- 大会は、社交的な雰囲気を用意し、人々が経験を交換し、新しい友人を作る機会を与えるものとする。
- 参加費用は低額に抑えられるものとし、さまざまな水準と料金の宿泊施設が提供されるものとする。

### 2. 大会プログラム

大会は、毎年、開催される。プログラムには、スプリント、ミドルおよびロングディスタンス競技、混合スプリントリレー、およびリレーと、開会式、閉会式、および適切なモデルイベントと休養日が含まれるものとする。スプリント、ミドル、およびロングディスタンス競技は、個人レース競技である。ロングディスタンス競技またはミドルディスタンス競技のいずれかは、マススタートであるべきである。プログラムは 7 日間を超えないものとする。ESOC の日程は、IOF によって他の国際大会と調整されるものとする。

### 3. 大会申請と主催者の任命

IOF のメンバーであるヨーロッパの連盟は、ESOC の皆済を申請できる。申請は、大会の 2 年前の 1 月 1 日までに IOF に届けられるものとする。ヨーロッパオリエンテーリング連盟の年次総会において、主催者が任命される。任命には、IOF による承認と主催者による契約調印が必要である。大会をコントロールするために、別の連盟からの IOF イベントアドバイザーが任命されるものとする。

### 4. 参加

国際オリンピック委員会によってヨーロッパ大陸に属すると定義され、IOF のメンバーである連盟を代表する競技者は、ESOC に参加できる。

IOF の他のメンバー連盟を代表する競技者は、ESOC に参加できるが、ヨーロッパのタイトル、メダル、または賞状を受ける資格はない。

個人競技では、連盟は各クラス最大 6 名の競技者をエントリーさせることができる。連盟は、リレーには 2 チーム、混合スプリントリレーには 3 チームをエントリーさせることができる。現在のヨーロッパチャンピオンには、通常の連盟からのエント

リーに加えて、レッドグループの“ワイルドカード”が与えられるものとする。1チームの競技者およびリーダーの人数に制限はないものとする。主催連盟は、個人競技に追加で2名の競技者をESOC公式競技者として参加させることができる。これらの競技者は、最下位のランクのスタートグループでスタートするものとする。

5. スタート順、スタート間隔、ウィニングタイム、レッドグループなど  
ワールドカップ大会と共催の場合、スタート順とレッドグループの割り当てに関して、ワールドカップ特別規則が適用される。

#### 6. 結果リスト

ヨーロッパ以外の走者が競技に参加する場合、2つの個別の結果リストが発表されるものとする。1つの結果リストは、ヨーロッパ以外の走者を除外したヨーロッパオリエンテーリング選手権の結果を示し、もう1つは、ヨーロッパ以外の走者も含めた競技結果を示す。

#### 7. 表彰

主催者は、すべての個人競技（各クラス/競技で3個のメダル）、リレー（各クラス/競技で9個のメダル）、およびスプリントリレー（各クラス/競技で6個のメダル）についてEWGによって提供される特別デザインのメダルと、1位から6位までの賞状の費用を負担するものとする。

リレーでは、連盟はそれぞれ3名の競技者で構成される2チームをエントリーさせることができるが、結果リストには上位のチームだけが掲載される。混合スプリントリレーでは、連盟はそれぞれ2名の競技者で構成される3チームをエントリーさせることができるが、結果リストには最上位のチームだけが掲載される。

主催連盟の代表者とEWG（望ましい）またはIOFの代表者が表彰式を執り行うものとする。

#### 8. 裁定委員会

IOF理事会は裁定委員会を任命する。異なるオリエンテーリング連盟からの3名の投票権を持つメンバーで構成されるものとする。

#### 9. ワールドカップ

ESOCの一部として設定された1つ以上の競技がIOFによってワールドカップの大会シリーズの一部として設計された場合、実施の際に準拠する規則はIOFによって決定される。

## 前のバージョン (2012 年 7 月) からの重要な変更点

参照として、2013 年の規則番号が付けられている。

- 2.10 IOF プロトコルガイドの参照が追加された。
- 3.2 スプリントリレーが WSOC 混合スプリントリレーに置き換えられた。
- 3.3 ワールドカップは、個人ワールドカップと国別ワールドカップで構成されるようになった。
- 3.8 WMSOC プログラムは 3 つのレースで構成される。
- 6.5 WSOC チームの人数に制限はない。
- 6.8 スプリントリレーが WSOC 混合スプリントリレーに置き換えられた。以降の規則の番号が変更された。
- 8.5 地図のサイズは、ブリテン 3 で公表されなければならない。
- 8.13 地図のサイズは、ブリテン 3 で公表されなければならない。
- 10.2 WSOC WCup JWSOC の明確化。チームは空港または鉄道駅からの交通費を支払わなければならない場合がある。
- 12.5 いかなる種類のレースでも、極端な気象条件では、スタートを遅らせることができる。
- 12.6 WSOC WCup のスタートグループが明確化された。
- 12.7 JWSOC スタートグループが明確化され、以降の規則の番号が変更された。
- 12.8 WCup が追加された。
- 12.12 マススタートのスタート番号は世界ランキングに基づく。
- 12.14 リレーのスタート番号割り当ての明確化。
- 12.15 WCup が追加された。
- 12.17 WSOC および WCup の 4 つのスタートグループ。
- 12.18 WCup が追加された。
- 12.20 WMSOC のスタート順。
- 12.21 WRE のスタート順。
- 16.12 WMSOC ミドルディスタンスのウィニングタイムが追加された。
- 17.2 立入禁止エリアは地上に印されなければならない。
- 21.7 WSOC WCup JWSOC 競技者は、別の連盟のチームウェアを着用することはできない。
- 22.4 プレスタートの時計は点呼時間を示す。
- 22.8 スタートには必ずコントロールフラグがあるべきである。
- 22.9 競技者は、スタートの 15 秒前に地図を受け取る。
- 22.10 フライニングに対する 2 分間のペナルティ。
- 元の規則 22.11 が削除された。以降の規則の番号が変更された。
- 22.13 次のリレースキーヤーが地図を回収する。
- 22.18 ウォーミングアップエリアと滑走テストトラックが追加された。
- 22.19 電子スタートゲート規則。
- 23.8 フィニッシュタイミングには光ビームが使用されるべきである。
- 23.14 WSOC 最大リレー滑走時間が 5 時間に短縮された。混合スプリントリレーの最大時間 3 時間。

- 24.17 WMSOC 結果は、決勝レースの結果と、最初の2つのレースの上位結果に基づく。以降の規則の番号が変更された。
- 25.4 混合スプリントリレーが追加された。
- 25.10 ワールドカップの表彰が修正された。
- 25.11 リレーワールドカップが国別ワールドカップに置き換えられた。
- 26.14 競技者と役員が賭けに参加することはできない。
- 32.3 WSOC WCup JWSOC 主催者は短い報告書を IOF に送付するものとする。
- 34.2 メディアのためのより良い設備。
- 34.4 メディアのための競技エリアへのアクセス。
- ESOC 規則は WSOC 規則に従う。混合スプリントリレーが含まれた。